

「県民の幸福感に関する分析部会」令和3年度年次レポートについて

【要旨】

いわて県民計画（2019～2028）の推進に当たり政策評価に活用するため、岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会（以下「分析部会」という。）において、県民の幸福に関する様々な実感の分析を行い、「年次レポート」としてとりまとめた結果について、概要を報告するもの。

1 分析目的

- 県では、「いわて県民計画（2019～2028）」の実実施計画である「政策推進プラン（2019～2022）」の進捗管理に当たり、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、社会経済情勢や県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識を反映させながら政策を総合的に評価することにより、政策立案に反映させていくこととしている。
- 分析部会では、県民の幸福感を政策評価に反映させるため、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行ったもの。

2 部会開催状況

部会については、下記スケジュールにより令和3年度に全5回開催し、分析内容をとりまとめた。

	開催日	内 容
第1回	5月20日	・県民の幸福感に関する分析部会について ・県民の幸福感に関する分析方針（案）について ・分野別実感の分析について
第2回	5月27日	・分野別実感の分析について
第3回	6月17日	・分野別実感の分析について
第4回	7月29日	・「県民の幸福感に関する分析部会」令和3年度年次レポート（素案）について
第5回	10月29日	・「県民の幸福感に関する分析部会」令和3年度年次レポート（案）について ・令和4年県民意識調査（補足調査）について

3 分析結果

別紙参照

4 今後の方向

- 今年度の政策形成支援評価において、本内容を反映済み。
- 総合計画審議会に報告した後、県ホームページで公表予定。
- 来年度も同様に、「県民意識調査」、「同（補足調査）」等の結果を踏まえて、県民の幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行い、政策形成支援評価に活用する予定。

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」 令和3年度年次レポート【概要版】

1 分析目的

- 県では、「いわて県民計画（2019～2028）」政策推進プランの進捗管理に当たり、いわて幸福関連指標をはじめとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識調査の結果や社会経済情勢を踏まえて政策を総合的に評価することにより、政策立案に反映させていくこととしている。
- 県民の幸福感に関する分析部会では、県民の幸福感を評価に反映させるため、令和3年1月から2月に実施した県民意識調査結果について、いわて県民計画が始まる直前の平成31年（基準年）の調査結果と比較し、幸福に関する分野別実感の変動要因等について分析を行った。

2 分析対象

- 以下の「県民意識調査」で把握した県民の幸福に関する様々な実感について、「補足調査」の結果も踏まえながら、統計手法等を活用の上、分析を行った。

表1 県民意識調査と補足調査

調査名	県の施策に関する県民意識調査	県の施策に関する県民意識調査（補足調査）
調査対象	県内に居住する18歳以上の男女	
対象者数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）
抽出方法	無作為抽出	固定（H31調査回答者から抽出）
調査時期	毎年1～2月	
調査項目	主観的幸福感、分野別実感 等	主観的幸福感、分野別実感、分野別実感の回答理由 等

3 分析結果

(1) 主観的幸福感の分析結果

- 令和3年県民意識調査の結果によると、5段階の選択肢に応じて5点（幸福だと感じている）から1点（幸福だと感じていない）を配点したところ、**県全体の实感平均値は、3.52点**（基準年調査：3.43点）となり、**主観的幸福感としては上昇**。
- なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、**県全体で55.4%**となり、**基準年調査より3.1ポイント上昇**。
また、「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」と回答した人は**16.1%**となり、**基準年調査より3.2ポイント低下**。
- 幸福を判断するに当たって特に重視した事項は、「健康状況」及び「家族関係」。
- 属性別に基準年調査と比較すると、以下の属性で主観的幸福感が上昇。
 - ・性別：「男性」及び「女性」
 - ・年代別：「60歳代」
 - ・子の数別：「2人」
 - ・職業別：「専業主婦・主夫」及び「60歳以上の無職」
 - ・世帯構成別：「夫婦のみ世帯」及び「その他世帯」
 - ・居住年数別：「20年以上」
 - ・広域振興圏別：「県南広域振興圏」

図1 主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

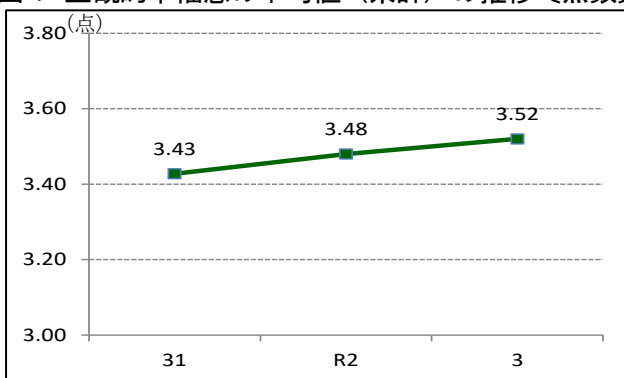
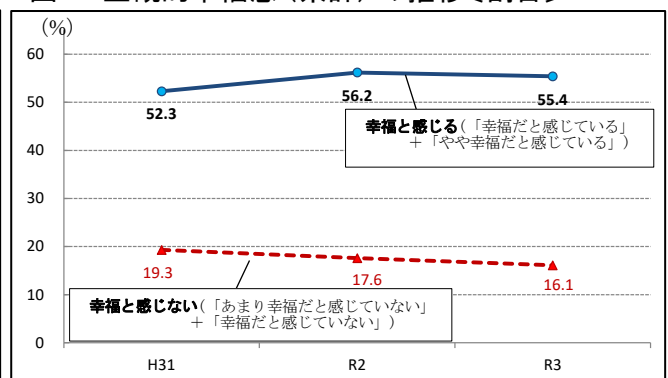


図2 主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



(2) 主観的幸福感に関連する12の分野別実感の分析結果

① 分野別実感の変動状況に係る分析結果

令和3年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を、県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、以下のとおり、上昇が4分野、横ばいが4分野、低下が4分野となった。

上 昇（4分野）：心身の健康、子育て、子どもの教育、必要な収入や所得

横ばい（4分野）：家族関係、住まいの快適さ、仕事のやりがい、自然のゆたかさ

低 下（4分野）：余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、歴史・文化への誇り

分野別実感が増した要因は、補足調査において実感が上昇した人の上位3位までの回答理由等から、表2のとおり推測された。

表2 分野別実感が増した要因分析結果

上昇した 分野別実感	基準年（H31）と令和 3年の実感平均値の差	推測される要因等
心身の健康	0.07 (3.07)	<p>【からだ】</p> <p>ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと</p> <p>イ 健康診断の結果が良かったこと</p> <p>ウ 持病がないこと</p> <p>【こころ】</p> <p>ア 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと</p> <p>イ からだの健康状態が良好であること</p> <p>ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと</p>
子育て	0.08 (3.16)	<p>ア 子どもを預けられる場所（保育所など）があること</p> <p>イ 子どもを預けられる人（親、親戚など）がいること</p> <p>ウ 配偶者が家事に参加していること</p> <p>エ 自分の就業状況（労働時間、休業・休暇など）が良好であること</p> <p>オ 自分の勤め先の子育てに対する理解があること</p>
子どもの教育	0.10 (3.20)	<p>ア 学力を育む教育内容となっていること</p> <p>イ 人間性、社会性を育むための教育内容となっていること</p> <p>ウ 健やかな体を育む教育内容（体育、部活動の内容など）となっていること</p>
必要な 収入や所得	0.13 (2.77)	<p>ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分であること</p> <p>イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分であること</p> <p>ウ 生活の程度が十分であること</p>

(注) () は、令和3年県民意識調査における実感平均値。

分野別実感が低下した要因は、補足調査において実感が低下した人の上位3位までの回答理由等から、表3のとおり推測された。

表3 分野別実感が低下した要因分析結果

低下した分野別実感	基準年 (H31) と令和3年の実感平均値の差	推測される要因等
余暇の充実	△0.08 (2.97)	ア 自由な時間を十分に確保できなかったこと イ 知人・友人との交流が減ったこと ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと
地域社会とのつながり	△0.25 (3.09)	ア 隣近所との面識・交流が減ったこと イ 自治会・町内会活動への参加が減ったこと (環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数が影響していること
地域の安全	△0.06 (3.76)	ア 自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること イ 交通事故の防止対策(歩道の整備など)が十分とは言えないこと ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)が懸念されること
歴史・文化への誇り	△0.11 (3.18)	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらないこと イ 地域のお祭りの開催・伝統芸能の発表の機会が減少していること ウ その地域で過ごした年数が長いこと

(注) () は、令和3年県民意識調査における実感平均値。

② 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性については、補足調査の結果、各分野別実感において「感じる・やや感じる」と回答した人の上位 3 位までの回答理由から、表 4 のとおり要因が推測された。

表 4 分野別実感が一貫して高値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
家族関係	世帯構成	夫婦のみ	4.00～4.05	ア 会話の頻度が多いこと イ 同居（あるいは別居）がうまくいっていること ウ 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること
自然のゆたかさ	全ての属性		4.04～4.59	ア 緑の量が豊かであること イ 空気の状態が綺麗であること ウ 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して低値（3 点未満）で推移している属性については、補足調査の結果、各分野別実感において「感じない・あまり感じない」と回答した人の上位 3 位までの回答理由から、表 5 のとおり要因が推測された。

表 5 分野別実感が一貫して低値で推移している属性の要因分析結果

分野別実感	属性		実感平均値	推測される要因
余暇の充実	年代	30歳代	2.71～2.88	ア 自由な時間を十分に確保できなかったこと イ 趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと ウ 知人・友人との交流が少ないこと
		40歳代	2.82～2.88	
		50歳代	2.68～2.92	
	職業	常用雇用者	2.82～2.89	
	世帯構成	2世代世帯	2.80～2.98	
	子の人数	子どもはいない	2.84～2.97	
子育て	年代	20歳代	2.75～2.99	ア 子育てにかかる費用が高いこと イ 子どもを預けられる場所（保育所など）がないこと ウ 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
	世帯構成	ひとり暮らし	2.71～2.97	
	子の人数	子どもはいない	2.60～2.83	
子どもの教育	子の人数	子どもはいない	2.80～2.98	ア 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと イ 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと ウ 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと エ わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）
必要な収入や所得	会社役員・団体役員、居住年数10～20年未満を除く全ての属性		2.20～2.99	ア 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと イ 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと ウ 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと

【追加分析】新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析

令和3年県民意識調査において、新たに、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響を調査した結果、全12分野において、「よい影響を感じる+ややよい影響を感じる（以下、「良い影響を感じる」という。）」と回答した人が約1割、「よくない影響を感じる+あまりよくない影響を感じる（以下、「良くない影響を感じる」という。）」と回答した人が約4～6割であり、その他「どちらともいえない」、「影響を感じない」、「不明」という回答があった。

また、分野別にみると、「良くない影響を感じる」と回答した人の割合が高いのは、「こころの健康」62%、「余暇の充実」60%、「からだの健康」56%となった一方、割合が低いのは、「自然のゆたかさ」38%、「住まいの快適さ」39%、「仕事のやりがい」41%であった。

新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性については、新型コロナウイルス感染症が「分野別実感」に一定程度影響を与えたと推測できるものの、以下のとおり、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関連性を確認することはできなかった。

【分析結果】

- ・ 令和3年県民意識調査における「分野別実感」と「新型コロナウイルス感染症の影響」をクロス集計分析した結果、「新型コロナウイルス感染症の影響」については、「分野別実感」の内容（「感じる」、「感じない」）に関わらず、全ての分野において「良くない影響を感じる」と回答した人の割合が「良い影響を感じる」と回答した人の割合よりも大きかった。
- ・ 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値について分析した結果、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良い影響を感じる」と回答した人は、「どちらともいえない+影響を感じない」と回答した人よりも「分野別実感」の平均値が全ての分野において有意に高くなった。

また、「良くない影響を感じる」と回答した人は、「どちらともいえない+影響を感じない」と回答した人と比較すると、「分野別実感」の平均値が「地域社会とのつながり」、「歴史・文化への誇り」及び「自然のゆたかさ」の3分野で有意に高く、「家族関係」、「住まいの快適さ」及び「必要な収入や所得」の3分野で有意に低く、その他の6分野では有意な差は確認できなかった。「良くない影響を感じる」と回答した人が、「どちらともいえない+影響を感じない」と回答した人と比較して、「分野別実感」の平均値が有意に低くなっていることが確認された3分野について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前（R2）と後（R3）の「分野別実感」の変動を見てみると、「必要な収入や所得」が上昇、「家族関係」及び「住まいの快適さ」が横ばいで推移しており、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関連性を確認することはできなかった。

1 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役 (岩手県立大学客員教授)	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 副センター長	オブザーバー

※敬称略

2 令和3年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(木)	第1回部会開催 (1) 県民の幸福感に関する分析部会について (2) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (3) 分野別実感の分析について
5月27日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月17日(木)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月29日(木)	第4回部会開催 (1) 分野別実感の分析について (2) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和3年度年次レポート(素案)について
10月29日(金)	第5回部会開催 (1) 「県民の幸福感に関する分析部会」令和3年度年次レポート(案)について (2) 令和4年県民意識調査(補足調査)について
11月12日(金)	第97回総合計画審議会で分析結果を報告

岩手県総合計画審議会

「県民の幸福感に関する分析部会」

令和3年度年次レポート

令和3年11月

目次

第1章	本報告書の内容	1
第2章	令和3年度の分析事項	2
第3章	調査結果	
3.1	「県の施策に関する県民意識調査」の結果	4
3.1.1	調査目的及び対象等	
3.1.2	調査結果の概要	
3.2	「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果	9
3.2.1	調査目的及び対象等	
3.2.2	調査結果の概要	
第4章	分析結果	
4.1	分析方針等について	12
4.2	主観的幸福感について	17
4.3	分野別実感について	20
4.3.1	実感が上昇した分野	
4.3.2	実感が低下した分野	
4.3.3	実感が横ばいの分野	
第5章	まとめ	
5.1	主観的幸福感について	38
5.2	分野別実感について	38
	【追加分析】	
	新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性の分析	43
	<参考>	
参考1	県民の幸福感に関する分析部会運営要領	57
参考2	県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿	58
参考3	令和3年度における部会開催状況等	58
	別冊【資料編】	
参考資料1	「令和3年県の施策に関する県民意識調査」調査票	
参考資料2	「令和3年県の施策に関する県民意識調査」結果	
参考資料3	「令和3年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」調査票	
参考資料4	「令和3年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」結果	
参考資料5	「令和3年県の施策に関する県民意識調査」属性別平均点	
参考資料6	「令和3年県の施策に関する県民意識調査」属性別分析結果	
参考資料7	「令和3年県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」回答意見とりまとめ結果	
参考資料8	令和3年度幸福について考えるワークショップの開催結果	

第1章 本報告書の内容

【趣旨】

県では、2019年3月に「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「県民計画」という。)を策定しました。

本計画では、県民の幸福を守り育てることを基本目標に掲げ、県民の幸福に関連する10の政策分野を設定するとともに、それぞれにいわて幸福関連指標を設定して取組を展開することとしています。

計画の推進に当たっては、政策評価に基づく「政策推進プラン(2019年度～2022年度)」の進捗管理を行うこととしており、いわて幸福関連指標を始めとする客観的指標の達成状況に加え、県民がどの程度幸福を実感しているかといった県民意識や、社会経済情勢も踏まえた総合評価を行い、政策立案に反映させていくことが必要です。

そこで、岩手県総合計画審議会において、令和元年6月に「県民の幸福感に関する分析部会」(以下「分析部会」という。)を設置し、「県の施策に関する県民意識調査」(以下「県民意識調査」という。)で把握した県民の幸福に関する様々な実感を、県民計画が始まる直前の平成31年(基準年)の実感と比較し、その変動要因について分析を行うこととしています。

この報告書は、令和3年度における分析部会の分析結果をとりまとめたものです。

【概要】

令和3年県民意識調査結果において、「幸福だと感じる」から「幸福だと感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は3.52点(基準年調査:3.43点)となり、基準年より0.09点上昇しています。

県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、t検定により時系列変化の有無を検証した結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。(P17参照)

同様に、令和3年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値を見ると、基準年調査に比べて、下記のとおり4分野で上昇、4分野で横ばい、4分野で低下、となっていることから、本書において、その変動要因の分析を行いました。(P20以降参照)

上 昇(4分野):心身の健康、子育て、子どもの教育、必要な収入や所得

横ばい(4分野):家族関係、住まいの快適さ、仕事のやりがい、自然のゆたかさ

低 下(4分野):余暇の充実、地域社会とのつながり、地域の安全、歴史・文化への誇り

また、本調査においては、平成28年から幸福に関する設問を設けており、幸福に関する調査を開始して以降、一貫して高値又は低値で推移している属性についても、その要因の分析を行いました。

なお、令和3年1月から2月にかけて実施している県民意識調査において新型コロナウイルス感染症の各分野への影響に係る設問を新たに設け、その調査結果を用いて、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と分野別実感の関連性について、追加分析を行いました。

(P43参照)

第2章 令和3年度の分析事項

県では、県民の主観的幸福感や幸福に関する分野別実感について、毎年、無作為抽出により5,000人の対象者を選定して行う県民意識調査により把握しています。

しかし、当該調査のみでは、分野別実感の変動要因を推測することは困難であることから、調査対象者を固定した継続調査を行うこととし、令和元年度の分析部会において、県民意識調査を補足する「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」（以下「補足調査」という。）の設計を行いました。補足調査は、県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から600人を調査対象者として固定し、令和2年1月より県民意識調査と同時期に実施しています。

表1 県民意識調査と補足調査

	県民意識調査	補足調査
目的	県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること	県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと (対象者を固定することで、対象者の実感が前回調査から変動した項目を把握し、県民意識調査の分野別実感が変動した要因を推測する)
対象	県内に居住する18歳以上の男女	県内に居住する18歳以上の男女
調査人数	5,000人	600人（各広域振興圏150人）※
抽出方法	選挙人名簿からの層化二段無作為抽出（回答者は毎年変更）	基準年である平成31年県民意識調査回答者のうち補足調査にご協力いただける者から選定し、毎年固定
調査時期	毎年1月～2月	毎年1月～2月

※R3年補足調査は、県内在住で調査に御協力いただける598人を対象として実施

今年度の分析部会では、県民意識調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の方法により分析を行いました。

- 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握（令和3年県民意識調査結果の属性分析）
県民意識の属性別での特徴を把握するため、令和3年県民意識調査結果を対象に、主観的幸福感と分野別実感の属性差の有無を分析
- 分野別実感の変動要因の推測（基準年との2時点比較）
 - ・ 県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年（基準年）と令和3年の県民意識調査結果から、2時点間で有意に変化した分野別実感や属性の有無を分析
 - ・ 2時点間で実感が上昇・低下した分野について、補足調査において当該分野別実感が上昇・低下した人の回答項目等から、実感が上昇・低下した要因を推測
- 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測（平成28年からの時系列分析）

平成28年から令和3年までの県民意識調査結果から、分野別実感の平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性について、補足調査において当該属性に該当する人で、高値にあつては「感じる・やや感じる」、低値にあつては、「感

じない・あまり感じない」と回答した項目等から要因を推測

表2 分析等に係るスケジュール

年度	調査		分析
平成27年度 (H28.1)～	幸福実感に係る調査を開始		—
令和元年度			<ul style="list-style-type: none"> ・補足調査の設計 ・過去の県民意識調査の分析
令和2年度			<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和3年度	県民意識調査	補足調査	<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析
令和4年度			<ul style="list-style-type: none"> ・県民意識調査に係る分野別実感の変動要因の分析 ・分野別実感と「いわて幸福関連指標」との関連性の検討
令和5年度以降			—

第3章 調査結果

3.1 「県の施策に関する県民意識調査」の結果

3.1.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画に基づいて実施する県の施策について、県民がどの程度重要性を感じ、現在の状況にどの程度満足しているか、また、どの程度幸福度を感じているか等を把握し、今後、県が重点的に取り組むべき施策の方向性等を明らかにすること
- ② 調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 5,000人
- ④ 抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和3年1～2月（毎年調査）
- ⑦ 回収者数 3,549人
- ⑧ 有効回収率 71.0%
- ⑨ 回答者の属性

【性別】	回答者数	割合
男性	1,561	(44.0)
女性	1,949	(54.9)
その他	6	(0.2)
不明	33	(0.9)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	53	(1.5)
20～29歳	200	(5.6)
30～39歳	320	(9.0)
40～49歳	499	(14.1)
50～59歳	604	(17.0)
60～69歳	766	(21.6)
70歳以上	1,009	(28.4)
不明	98	(2.8)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	1,011	(28.5)
県南広域振興圏	1,080	(30.4)
沿岸広域振興圏	833	(23.5)
県北広域振興圏	625	(17.6)

【居住年数別】	回答者数	割合
10年未満	100	(2.8)
10～20年未満	145	(4.1)
20年以上	3,174	(89.4)
不明	130	(3.7)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	282	(7.9)
家族従業者	119	(3.4)
会社役員・団体役員	240	(6.8)
常用雇用者	1,025	(28.9)
臨時雇用者	440	(12.4)
学生＋その他	119	(3.4)
専業主婦(主夫)	403	(11.4)
60歳未満の無職	77	(2.2)
60歳以上の無職	697	(19.6)
不明	147	(4.1)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	450	(12.7)
2人	1,270	(35.8)
3人	682	(19.2)
4人以上	159	(4.5)
子どもはいない	802	(22.6)
不明	186	(5.2)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	431	(12.1)
夫婦のみ	718	(20.2)
2世代世帯	1,437	(40.5)
3世代世帯	548	(15.4)
その他	184	(5.2)
不明	231	(6.5)

()内は%

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.1.2 調査結果の概要

① 主観的幸福感（設問：あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。）

主観的幸福感について、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.52点（基準年調査：3.43点）となり、昨年に引き続き上昇しました。

なお、県全体の主観的幸福感については、幸福と感じる（「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」）と回答した人が55.4%（基準年調査：52.3%）、幸福と感じない（「幸福だと感じていない」又は「あまり幸福だと感じていない」）と回答した人が16.1%（基準年調査：19.3%）となりました。

図1 【県民意識調査】主観的幸福感の平均値（県計）の推移〔点数〕

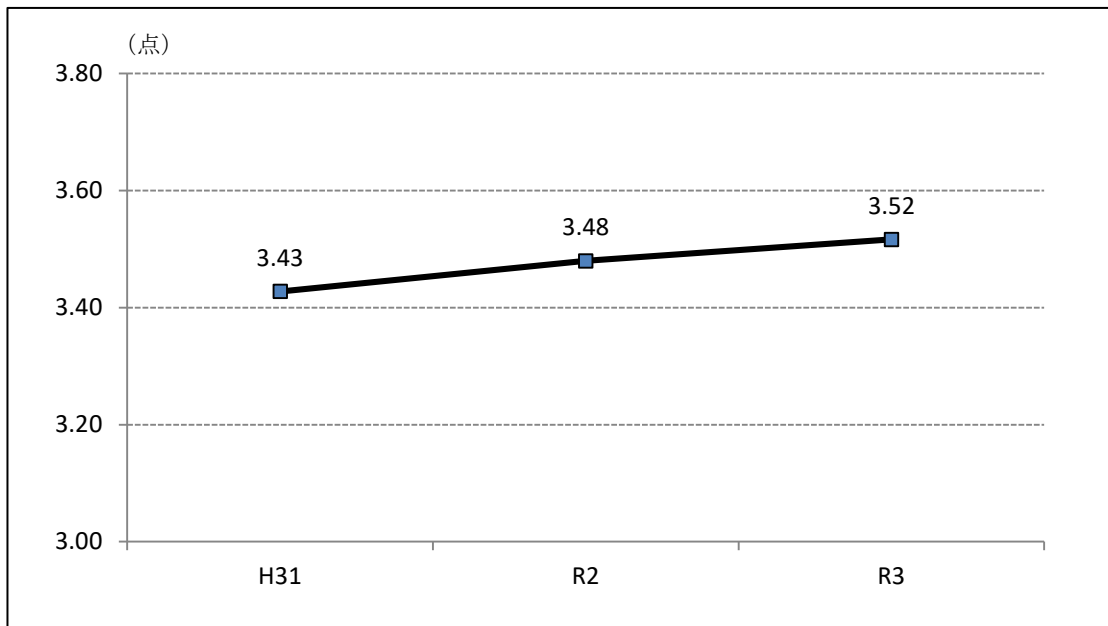
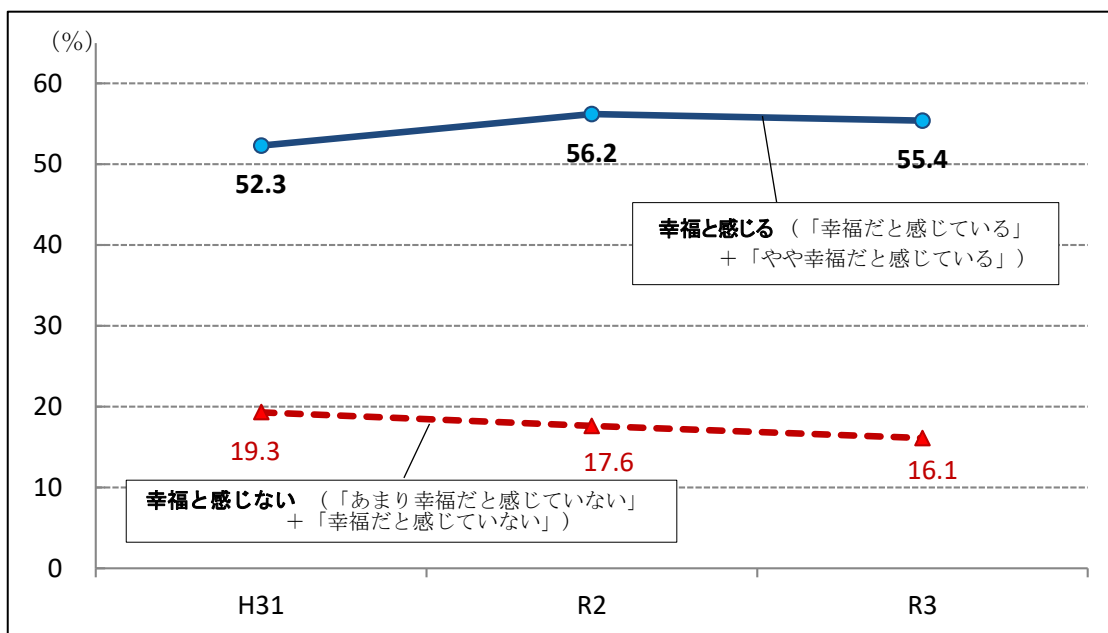


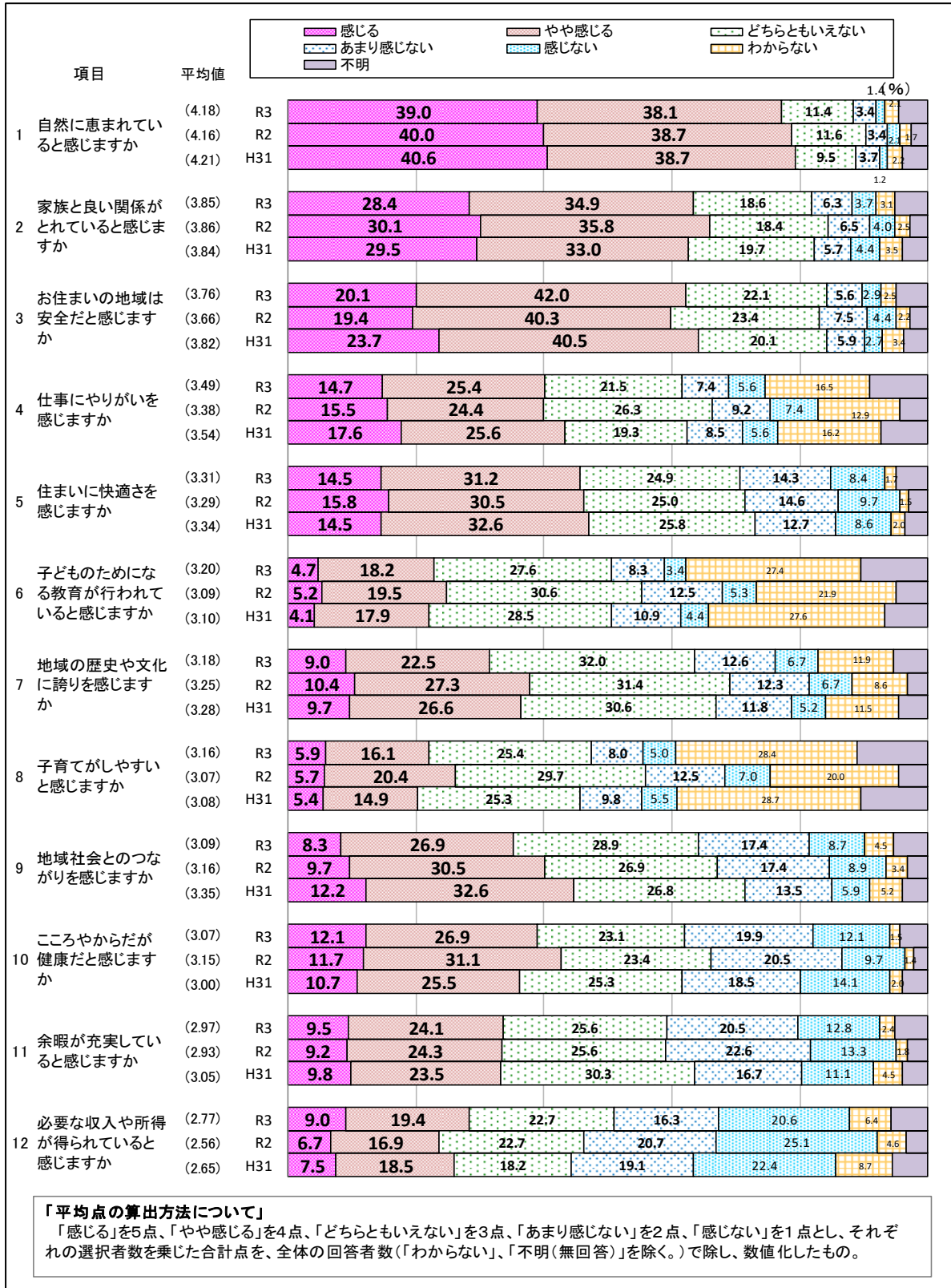
図2 【県民意識調査】主観的幸福感（県計）の推移〔割合〕



② 分野別実感（設問：現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。）

12 分野について実感を聞いた結果、「自然のゆたかさ」の実感が4点を超えているほか、「家族関係」や「地域の安全」の実感も基準年と同様に高くなっている一方で、「収入・所得」の実感は引き続き低くなっています。（下図は、令和3年調査の分野別実感の平均値が高い順に整理しています。）

図3 【県民意識調査】分野別実感の回答状況

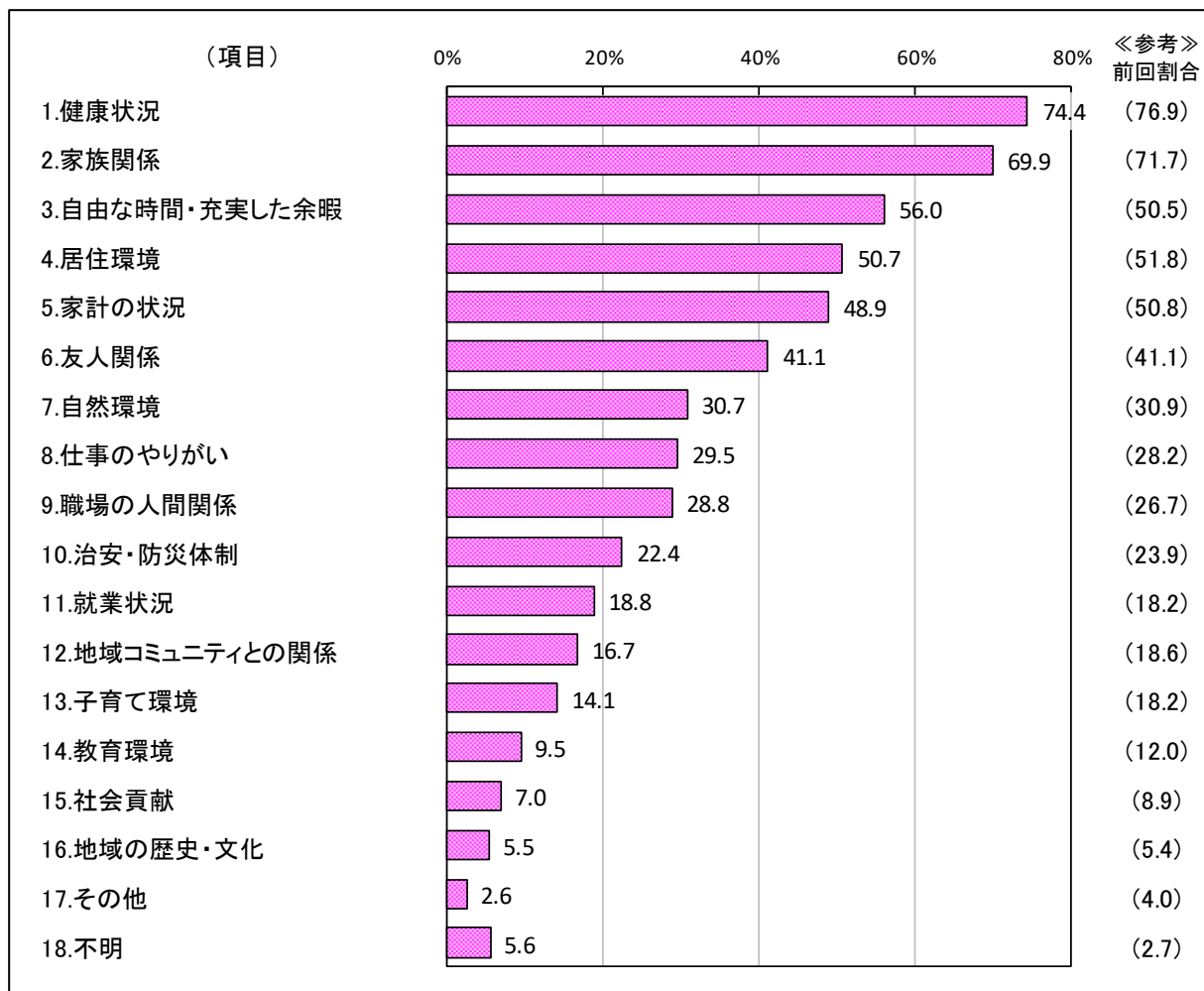


③ 幸福を判断する際に重視する事項

(設問：あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。)

幸福かどうか判断する際に重視すると回答した項目は、前年までの調査結果と同様に、「健康状況」や「家族関係」が特に高い結果となっています。

図4 【県民意識調査】幸福を判断する際に重視する事項の回答状況



(注) 県民意識調査結果の分析データについて

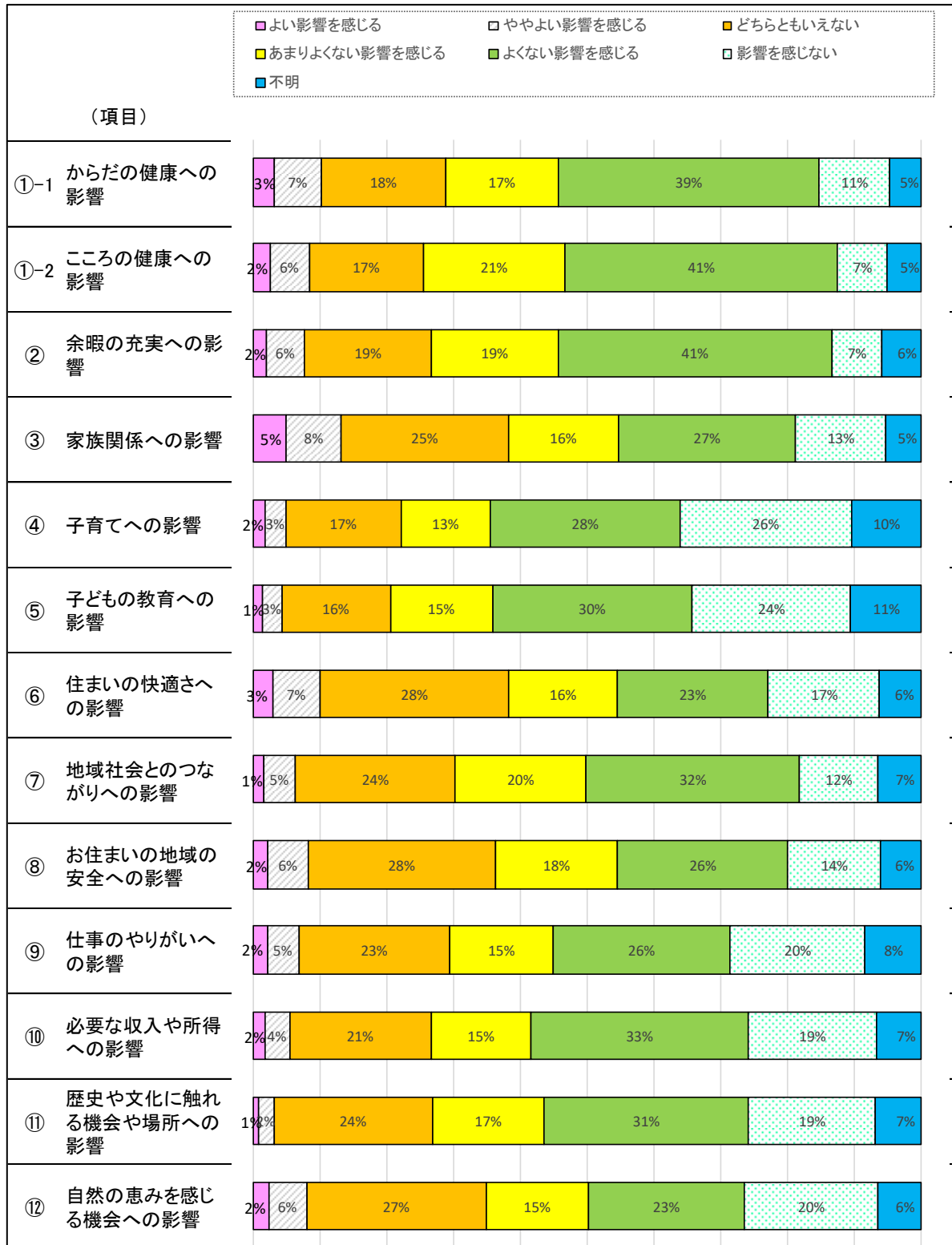
別途公表している県民意識調査結果は、回答者数の地域差を考慮し、居住人口に応じた係数を乗じて集計(母集団拡大集計)を行っています。当分析部会の分析データは単純集計結果を用いているため、分析結果は、既に公表されている県民意識調査結果と数値が異なる場合があります。

④ 新型コロナウイルス感染症の影響について

(設問：あなたは新型コロナウイルス感染症の影響についてどのように感じていますか。)

新型コロナウイルス感染症の影響についての分野別の回答結果は、図5のとおりであり、特に「こころの健康」や「余暇の充実」において、「ややよくない影響を感じる」又は「よくない影響を感じる」と回答した人が多くなっています。

図5 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況



3.2 「県の施策に関する県民意識調査（補足調査）」の結果

3.2.1 調査目的及び対象等

- ① 調査目的 県民計画を着実に推進していくため、県民意識調査で把握した分野別実感の変動要因を把握し、政策評価に反映していくこと
- ② 調査対象 岩手県内に居住する18歳以上の男女
- ③ 対象者数 598人（各広域振興圏約150人）
- ④ 抽出方法 県民計画の開始直前に当たる平成31年県民意識調査の回答者のうち、補足調査にご協力いただける者から抽出（毎年固定）
（各広域振興圏150人、概ね各年代100人）
- ⑤ 調査方法 設問票によるアンケート調査（郵送法）
- ⑥ 調査時期 令和3年1～2月（県民意識調査の実施と同時期）
- ⑦ 回収者数 571人
- ⑧ 有効回収率 95.5%
- ⑨ 回答者の属性

【男女別】	回答者数	割合
男性	281	(49.2)
女性	258	(45.2)
不明	32	(5.6)

【年齢別】	回答者数	割合
18～19歳	0	(0.0)
20～29歳	46	(8.1)
30～39歳	74	(13.0)
40～49歳	97	(17.0)
50～59歳	103	(18.0)
60～69歳	108	(18.9)
70歳以上	112	(19.6)
不明	31	(5.4)

【所得別】	回答者数	割合
100万円未満	93	(16.3)
100万円～300万円未満	278	(48.7)
300万円～500万円未満	105	(18.4)
500万円～700万円未満	27	(4.7)
700万円～1000万円未満	18	(3.2)
1000万円～1500万円未満	2	(0.4)
1500万円以上	1	(0.2)
不明	47	(8.2)

【居住形態別】	回答者数	割合
持家(一戸建て)	452	(79.2)
持家(集合住宅)	13	(2.3)
借家(一戸建て)	31	(5.4)
借家(集合住宅)	60	(10.5)
その他	9	(1.6)
不明	6	(1.1)

【居住地別】	回答者数	割合
県央広域振興圏	149	(26.1)
県南広域振興圏	141	(24.7)
沿岸広域振興圏	138	(24.2)
県北広域振興圏	143	(25.0)

【職業別】	回答者数	割合
自営業主	47	(8.2)
家族従業者	12	(2.1)
会社役員・団体役員	28	(4.9)
常用雇用者	205	(35.9)
臨時雇用者	77	(13.5)
学生+その他	34	(6.0)
専業主婦(主夫)	46	(8.1)
60歳未満の無職	11	(1.9)
60歳以上の無職	78	(13.7)
不明	33	(5.8)

【子どもの数別】	回答者数	割合
1人	69	(12.1)
2人	213	(37.3)
3人	107	(18.7)
4人	13	(2.3)
5人以上	6	(1.1)
子どもはいない	154	(27.0)
不明	9	(1.6)

【世帯構成別】	回答者数	割合
ひとり暮らし	66	(11.6)
同居人あり	489	(85.6)
単身赴任	4	(0.7)
その他	5	(0.9)
不明	7	(1.2)

【居住年数】	回答者数	割合
1年未満	0	(0.0)
1～5年未満	8	(1.4)
5～10年未満	10	(1.8)
10～20年未満	20	(3.5)
20年以上	526	(92.1)
不明	7	(1.2)

(注) 小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合があります。

3.2.2 調査結果の概要

補足調査で得られた分野別実感に対する回答を「感じる・やや感じる」、「どちらともいえない」、「あまり感じない・感じない」の3つに区分し、「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」を回答の多い順に整理した結果、表3のとおりとなりました。

表3 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感別〕

分野	感じる・やや感じる	どちらともいえない	あまり感じない・感じない
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ こころの健康状態	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果	ア 持病の有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 健康診断の結果 エ こころの健康状態
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 エ 趣味・娯楽活動の場所・機会 ウ 知人・友人との交流	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 困った時に助け合えるかどうか	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 自分が家族にもたらす精神的影響(貢献・負担)	ア 同居の有無 イ 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) ウ 会話の頻度(多い・少ない)
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 配偶者の家事への参加	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど)	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもの遊び場(公園など)の充実
(5) 子どもの教育	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ わからない(身近に子どもがいない、子育てに関わっていないなど) ウ 学校の選択の幅(高校、大学など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 不登校やいじめなどへの対応 エ 学校の選択の幅(高校、大学など)
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 住宅の延床面積(広さ・狭さ) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) イ 公共交通機関の利便性 ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア その地域で過ごした年数 イ 隣近所との面識・交流 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ 地域の行事への参加(お祭り、スポーツ大会など)
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 交通事故の発生状況 ウ 自然災害の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 地域の防犯体制(防犯パトロール、街頭防犯カメラなど) ウ 交通事故の防止(歩道の整備など)	ア 自然災害の発生状況 イ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など) ウ 自然災害に対する予防(堤防の建設、避難経路の確保など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 職場の人間関係 ウ 現在の収入・給料の額	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み	ア 現在の収入・給料の額 イ 現在の職種・業務の内容 ウ 将来の収入・給料の額の見込み
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の金融資産の額
(11) 歴史・文化への誇り	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域の食文化	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域の歴史や文化に関心がない ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 空気の状態(綺麗・汚い) イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い)	ア 自然に関心がない イ 緑の量(豊か・少ない) ウ 水(河川、池、地下水など)の状態(綺麗・汚い) エ 公園・緑地、水辺などの周辺環境

平成 31 年県民意識調査回答時と令和 3 年補足調査回答時において、実感に変動があった人の回答を「実感が上昇した人の回答」、「実感が横ばいの人の回答」、「実感が低下した人の回答」の 3 つに区分し、「分野別実感に対する回答理由と関連が強い要因として選択された項目」を回答が多い順に整理した結果、表 4 のとおりとなりました。
 (「(1) -1 からだの健康」及び「(1) -2 こころの健康」は、基準年データがないため、令和 2 年と比較)

表 4 【補足調査】分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された主な項目〔実感の変化別〕

分 野	実感が上昇した人の回答	実感が横ばいの人の回答	実感が低下した人の回答
(1)-1 からだの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 健康診断の結果 ウ 持病の有無	ア 持病の有無 イ 健康診断の結果 ウ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス)
(1)-2 こころの健康	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ からだの健康状態 ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無	ア 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) イ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無 ウ からだの健康状態	ア 仕事・学業におけるストレスの有無 イ 睡眠・休養・仕事・学業・運動などのくらしの時間配分(ワークライフバランス) ウ 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無
(2) 余暇の充実	ア 自由な時間の確保 イ 家族との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会	ア 自由な時間の確保 イ 知人・友人との交流 ウ 趣味・娯楽活動の場所・機会
(3) 家族関係	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 同居の有無 ウ 一緒にいる時間(長い・短い)	ア 会話の頻度(多い・少ない) イ 困った時に助け合えるかどうか ウ 同居の有無	ア 家族が自分にもたらす精神的影響(貢献・負担) イ 会話の頻度(多い・少ない) ウ 同居の有無
(4) 子育て	ア 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) イ 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) ウ 配偶者の家事への参加 エ 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など) オ 自分の勤め先の子育てに対する理解	ア 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など) イ 子どもを預けられる場所の有無(保育所など) ウ 子どもの教育にかかる費用	ア 子どもの教育にかかる費用 イ 子育てにかかる費用 ウ 子どもの習い事の選択の幅
(5) 子どもの教育	ア 学力を育む教育内容 イ 人間性、社会性を育むための教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学力を育む教育内容 ウ 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)	ア 人間性、社会性を育むための教育内容 イ 学校の選択の幅(高校、大学など) ウ 学力を育む教育内容 エ 不登校やいじめなどへの対応
(6) 住まいの快適さ	ア 居住形態(持ち家か借家か) イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の延床面積(広さ・狭さ)	ア 住宅の延床面積(広さ・狭さ) イ 居住形態(持ち家か借家か) ウ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など)	ア 公共交通機関の利便性 イ 立地の利便性(スーパー、コンビニ、公共施設、医療機関などとの距離など) ウ 住宅の機能性(バリアフリー、室内の温熱環境など)
(7) 地域社会とのつながり	ア 隣近所との面識・交流 イ その地域で過ごした年数 ウ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など)	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数	ア 隣近所との面識・交流 イ 自治会・町内会活動への参加(環境美化、防犯・防災活動など) ウ その地域で過ごした年数
(8) 地域の安全	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 犯罪の発生状況 イ 自然災害の発生状況 ウ 交通事故の発生状況	ア 自然災害の発生状況 イ 交通事故の防止(歩道の整備など) ウ 社会インフラの老朽化(橋、下水道など)
(9) 仕事のやりがい	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 就業形態(正規・非正規など) エ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 職場の人間関係	ア 現在の職種・業務の内容 イ 現在の収入・給料の額 ウ 将来の収入・給料の額の見込み エ 職場の人間関係
(10) 必要な収入や所得	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 生活の程度	ア 自分の収入・所得額(年金を含む) イ 家族の収入・所得額(年金を含む) ウ 自分の支出額 エ 家族の支出額
(11) 歴史・文化への誇り	ア その地域で過ごした年数 イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ 郷土の歴史的偉人	ア 地域のお祭り・伝統芸能 イ その地域で過ごした年数 ウ 地域での文化継承・保存活動	ア 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない イ 地域のお祭り・伝統芸能 ウ その地域で過ごした年数
(12) 自然のゆたかさ	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 空気の状態(綺麗・汚い) ウ 水(河川、池、地下水などの)状態(綺麗・汚い)	ア 緑の量(豊か・少ない) イ 水(河川、池、地下水などの)状態(綺麗・汚い) ウ 公園・緑地、水辺などの周辺環境 エ 自然(山・海など)と触れ合う機会

第4章 分析結果

4.1 分析方針等について

県民意識調査及び補足調査で得られた主観的幸福感と分野別実感について、以下の視点、方法で整理しました。

1 分析目的

(1) 主観的幸福感、分野別実感の概況の把握

県民意識の現状を把握するため、県民意識調査で得られた主観的幸福感や分野別実感の時系列変化と属性差を把握します。

(2) 分野別実感の変動要因の推測

県民意識の変化の状況を把握するため、平成31年県民意識調査と令和3年県民意識調査で有意な差が確認された分野別実感については、県民意識調査や補足調査を用いて、その要因を推測します。

(3) 分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性の把握とその要因の推測

分野別実感が一貫して高い又は低い属性を把握するため、平成28年から令和3年までの県民意識調査で得られた分野別実感で一貫して高値（平均値が毎年4点以上）又は低値（平均値が毎年3点未満）で推移している属性を把握するとともに、補足調査を用いて、その要因を推測します。

2 分析対象

(1) 県民意識調査（詳細はP4参照）

県民意識の状況を把握するため、無作為に抽出した18歳以上の県民5,000人を対象に毎年実施し（調査対象は毎年異なる）、主観的幸福感や分野別実感などを調査しています。

(2) 県民意識調査（補足調査）（詳細はP9参照）

県民意識調査結果を補足するため、あらかじめ選定した600人を対象に実施し（調査対象は毎年同じ）、主観的幸福感、分野別実感に加え、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目などを調査しています。

3 分析方法

(1) 基準年に対して実感が低下・上昇した要因分析について

① 「時系列変化の有無」はt検定で検証

県民意識調査における時系列変化の有無は、2時点間（平成31年と令和3年）の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があると判定されたものを、期間で差があると判断しました。

② 「属性差の有無」は一元配置分散分析で検証

令和3年県民意識調査における男女差などの各属性（年齢階層別等）の区分（20歳代、30歳代、40歳代等）間の差の有無は一元配置分散分析で検証し、5%水準で有意な差があると判定された属性を区分間で差があると判断しました。

当年次レポートでは、その中で最も値が高い区分と低い区分を記載しています。

なお、「その他（性別）」、「18～19歳」、「60歳未満の無職」はサンプル数が小さいため、分析対象からは除外しています。

③ 「分野別実感の変動要因」は県民意識調査や補足調査から推測

以下の2つの分析結果をもとに、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 分野別実感の変動に影響を与えた属性の回答項目から変動要因を検証

県民意識調査をもとに、分野別実感の変動に影響を与えたと判断される属性を把握し、さらに補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、県民意識調査で当該分野別実感の低下が大きい属性を把握し、補足調査で当該属性の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、分野別実感の変動要因を検討しました。

・ 補足調査で得られた分野別実感の回答項目から変動要因を推測

補足調査で得られた分野別実感の回答項目を分野別実感の変化ごと（実感が上昇した人、実感が横ばいの人、実感が低下した人）の3区分に整理し、分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容や各区分間の比較から、分野別実感の変動要因を推測しました。

例えば、分野別実感が低下した要因を分析する場合、「実感が低下した人」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目の内容を分析するとともに、「実感が横ばい、上昇した人」の回答項目との比較を通じて、分野別実感の変動要因を検討しました。

なお、より実感の変化を適切に把握するため、実感が低下した場合は「感じる」から「やや感じる」に低下したものを、実感が上昇した場合は「感じない」から「あまり感じない」に上昇したものを、それぞれ分析対象から除外しています。

(2) 「分野別実感が一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因」は、県民意識調査から属性を把握し、補足調査から要因を推測

平成28年から令和3年までの県民意識調査で得られた分野別実感で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性については、分野全体で一貫して高値で推移している分野を対象として、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じる」「やや感じる」と回答した人の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、高値で推移している要因を推測しました。

また、一貫して低値（3点未満）で推移している属性については、補足調査で当該属性の分野別実感が「感じない」「あまり感じない」の分野別実感の回答項目に関連が強い要因として選択された項目を把握することで、低値で推移している要因を推測しました。

○ 県民意識調査から得られた分野別実感の平均値の状況

県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値の状況について、基準年と令和3年を比較し、統計的に有意な差が確認された属性を表5に示しています。

表5 【県民意識調査】属性別平均点一覧表(平成31年調査と令和3年調査の差)

		主観的幸福感	心身の健康	余暇の充実	家族関係	子育て	
令和3年調査 平均値		3.52	3.07	2.97	3.85	3.16	
平成31年調査と令和3年調査の差	県計 (3,549)	0.09	0.07	▲ 0.08	-	0.08	
	性別	男性(1,561)	0.08	-	-	-	-
		女性(1,949)	0.08	-	▲ 0.10	-	0.09
		その他(参考)(6)					
	年代	18～19歳(参考)(53)	0.78	-	0.56	-	-
		20～29歳(200)	-	-	-	-	-
		30～39歳(320)	-	-	-	-	-
		40～49歳(499)	-	-	-	-	0.19
		50～59歳(604)	-	-	▲ 0.23	-	-
		60～69歳(766)	0.17	0.16	-	-	-
		70歳以上(1,009)	-	-	▲ 0.21	-	-
	職業	自営業主(282)	-	-	-	-	-
		家族従業員(119)	-	-	-	-	-
		会社役員・団体役員(240)	-	-	-	0.25	0.35
		常用雇用者(1,025)	-	-	-	-	-
		臨時雇用者(440)	-	-	-	-	-
		学生+その他(119)	-	-	-	0.30	-
		専業主婦・主夫(403)	0.17	-	-	-	0.23
		60歳未満の無職(参考)(77)	-	-	▲ 0.56	-	-
		60歳以上の無職(697)	0.13	0.17	▲ 0.17	-	-
	世帯構成	ひとり暮らし(431)	-	-	-	-	-
		夫婦のみ(718)	0.16	-	-	-	-
		2世代世帯(1,302)	-	-	-	-	-
		3世代世帯(473)	-	-	-	-	-
		その他(391)	0.25	0.33	-	-	0.39
	子の数	1人(450)	-	-	▲ 0.19	-	-
		2人(1,270)	0.11	-	-	-	-
		3人(682)	-	-	-	-	-
4人以上(159)		-	-	-	-	-	
子どもはいない(802)		-	-	-	-	0.23	
居住年数	10年未満(100)	-	-	-	-	-	
	10～20年未満(145)	-	-	-	-	-	
	20年以上(3,174)	0.07	0.07	▲ 0.09	-	0.08	
広域振興圏	県央(1,011)	-	-	-	-	-	
	県南(1,080)	0.17	0.14	-	-	0.15	
	沿岸(833)	-	-	▲ 0.13	-	-	
	県北(625)	-	-	-	-	-	

■ : 上昇 □ : 横ばい ▨ : 低下

子どもの教育	住まいの快適さ	地域社会とのつながり	地域の安全	仕事のやりがい	必要な収入や所得	歴史・文化への誇り	自然のゆたかさ
3.20	3.31	3.09	3.76	3.49	2.77	3.18	4.18
0.10	-	▲ 0.25	▲ 0.06	-	0.13	▲ 0.11	-
0.09	-	▲ 0.28	-	-	-	▲ 0.10	-
0.10	-	▲ 0.23	-	-	0.18	▲ 0.12	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	1.07	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
0.31	-	▲ 0.20	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
-	▲ 0.15	▲ 0.39	▲ 0.15	-	-	▲ 0.14	-
0.19	-	▲ 0.22	-	-	0.14	-	-
-	-	▲ 0.21	-	▲ 0.23	-	▲ 0.13	-
-	-	▲ 0.19	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.33	-	▲ 0.35	-	-	-
0.29	-	-	-	-	-	-	-
0.13	-	▲ 0.30	▲ 0.09	-	0.13	-	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	▲ 0.20	▲ 0.15
-	-	-	-	-	-	-	-
0.19	-	-	-	-	0.43	▲ 0.17	-
-	-	▲ 0.47	-	-	-	-	▲ 0.49
-	-	▲ 0.24	▲ 0.12	▲ 0.25	-	▲ 0.15	-
-	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
-	-	▲ 0.20	-	-	0.15	-	-
0.09	-	▲ 0.33	▲ 0.11	-	-	▲ 0.11	-
-	-	▲ 0.21	-	-	-	-	-
0.32	0.23	-	-	-	-	-	-
0.15	-	▲ 0.32	-	-	-	-	-
0.14	-	▲ 0.22	-	-	0.16	▲ 0.10	-
-	-	▲ 0.23	-	▲ 0.18	-	▲ 0.16	-
-	-	-	▲ 0.27	-	0.38	-	-
0.14	-	▲ 0.28	-	-	-	-	-
0.38	0.37	▲ 0.38	-	-	0.43	-	-
-	-	-	-	-	0.65	-	-
0.09	-	▲ 0.27	▲ 0.07	-	0.09	▲ 0.12	-
0.13	-	▲ 0.23	▲ 0.11	-	0.14	-	-
-	-	▲ 0.25	-	-	0.16	-	-
-	-	▲ 0.28	-	▲ 0.15	-	▲ 0.20	-
-	-	▲ 0.27	-	-	0.16	▲ 0.18	-

次に、県民意識調査において分野別実感の調査を始めた平成28年から令和3年までにおいて、実感平均値が一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性を表6に示しています。

表6【県民意識調査】属性別平均値一覧表（調査開始年から令和3年まで一貫して高値又は低値で推移している属性）

		余暇の充実	家族関係	子育て	子どもの教育	必要な収入や所得	自然のゆたかさ
県計(3,549)						2.44～2.77	4.16～4.27
性別	男性(1,561)					2.46～2.75	4.13～4.25
	女性(1,949)					2.43～2.79	4.18～4.29
	その他(参考)(6)						
年代	18～19歳(参考)(53)						
	20～29歳(200)			2.75～2.99		2.44～2.68	4.20～4.37
	30～39歳(320)	2.71～2.88				2.36～2.71	4.22～4.33
	40～49歳(499)	2.82～2.88				2.50～2.82	4.16～4.42
	50～59歳(604)	2.68～2.92				2.46～2.75	4.24～4.38
	60～69歳(766)					2.37～2.77	4.09～4.24
	70歳以上(1,009)					2.45～2.80	4.08～4.20
職業	自営業主(282)					2.53～2.86	4.19～4.29
	家族従業者(119)					2.42～2.91	4.12～4.50
	会社役員・団体役員(240)						4.20～4.30
	常用雇用者(1,025)	2.82～2.89				2.55～2.86	4.21～4.33
	臨時雇用者(440)					2.20～2.65	4.16～4.36
	学生+その他(119)					2.49～2.94	4.09～4.59
	専業主婦・主夫(403)					2.34～2.89	4.15～4.29
	60歳未満の無職(参考)(77)						
	60歳以上の無職(697)					2.25～2.46	4.04～4.09
世帯構成	ひとり暮らし(431)			2.71～2.97		2.52～2.75	4.07～4.22
	夫婦のみ(718)		4.00～4.05			2.43～2.92	4.10～4.22
	2世代世帯(1,437)	2.80～2.98				2.41～2.71	4.16～4.29
	3世代世帯(548)					2.49～2.82	4.29～4.44
	その他(184)						
子の数	1人(450)					2.41～2.78	4.16～4.28
	2人(1,270)					2.48～2.86	4.16～4.25
	3人(682)					2.48～2.83	4.16～4.30
	4人以上(159)					2.31～2.86	4.18～4.32
	子どもはいない(802)	2.84～2.97		2.60～2.83	2.80～2.98	2.37～2.59	4.14～4.30
居住年数	10年未満(100)					2.55～2.99	4.16～4.46
	10～20年未満(145)						4.21～4.35
	20年以上(3,174)					2.42～2.75	4.15～4.27
広域振興圏	県央(1,011)					2.47～2.87	4.16～4.28
	県南(1,080)					2.39～2.70	4.11～4.26
	沿岸(833)					2.51～2.76	4.13～4.26
	県北(625)					2.34～2.76	4.22～4.37

() は、R3調査のサンプル数

4.2 主観的幸福感について

① 主観的幸福感の推移（P 5 図 1 及び図 2 参照）

令和 3 年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の 5 段階の選択肢に応じて 5 点から 1 点を配点したところ、県全体の実感平均値は 3.52 点となり、基準年より 0.09 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、**主観的幸福感**は上昇していると考えられます。

なお、「幸福だと感じている」又は「やや幸福だと感じている」と回答した人の割合は、県全体で 55.4%となり、基準年より 3.1 ポイント上昇し、「あまり幸福だと感じていない」又は「幸福だと感じていない」と回答した人の割合は、県全体で 16.1%となり、基準年より 3.2 ポイント低下しました。

② 属性別の状況

ア 令和 3 年県民意識調査の状況（P 18 図 6 参照）

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50 歳代」が低く、「60 歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

イ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較（表 7 参照）

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 7 のとおりでした。

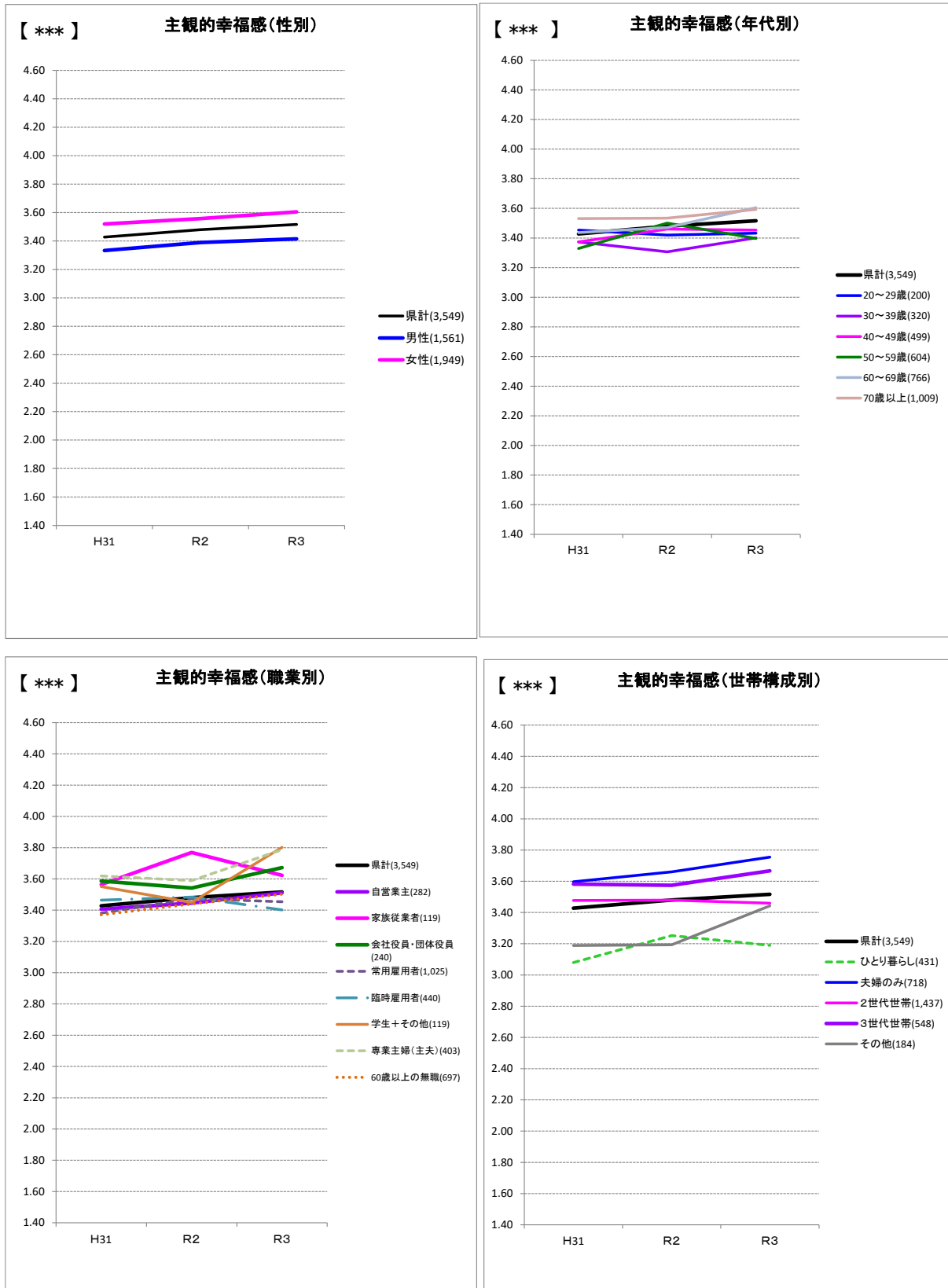
表 7 主観的幸福感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R 3 -H31 (対基準年差)
性別	男性	3.33	3.42	0.08
	女性	3.52	3.60	0.08
年代	60～69 歳	3.44	3.60	0.17
職業	専業主婦・主夫	3.62	3.79	0.17
	60 歳以上の無職	3.37	3.50	0.13
世帯構成	夫婦のみ	3.60	3.75	0.16
	その他	3.19	3.44	0.25
子の数	2 人	3.56	3.68	0.11
居住年数	20 年以上	3.42	3.50	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	3.31	3.48	0.17

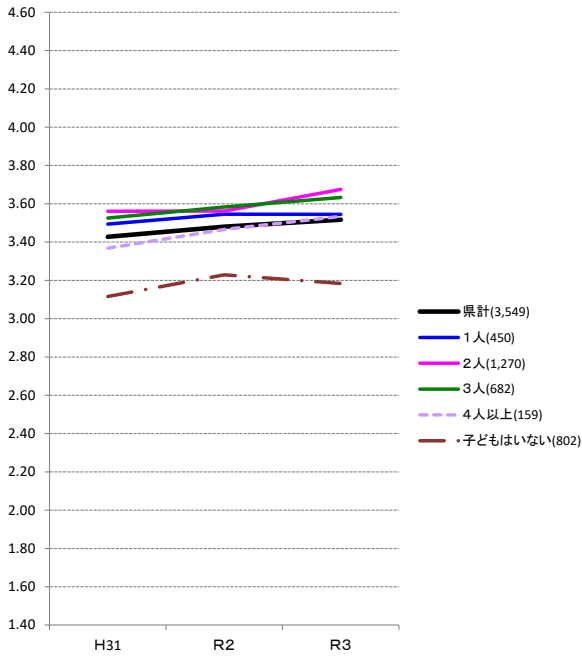
③ 幸福感を判断する上で重視された項目（P 7 図 4 参照）

令和 3 年県民意識調査において、回答した人が幸福感を判断する上で特に重視した項目は、「健康状況」や「家族関係」でした。

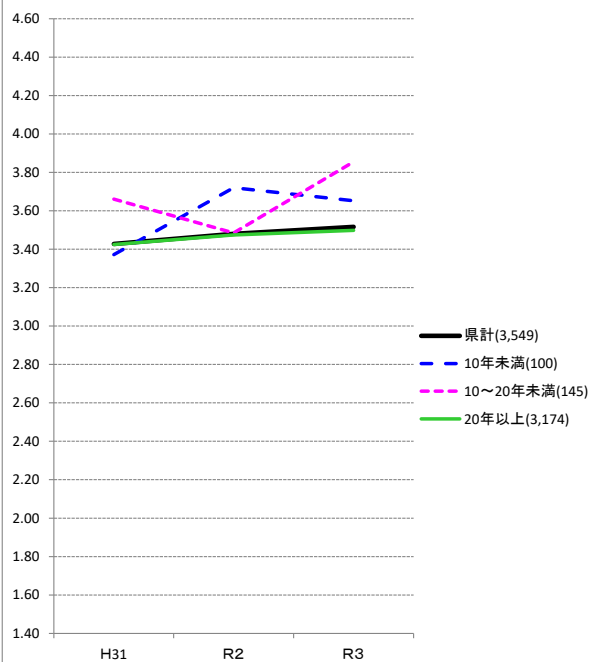
図6 主観的幸福感の属性別集計結果



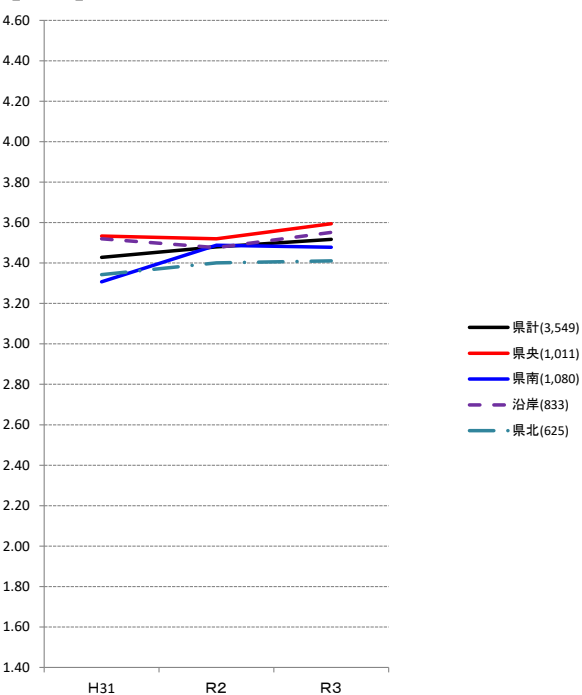
【***】 主観的幸福感(子の数別)



【***】 主観的幸福感(居住年数別)



【***】 主観的幸福感(広域圏別)



「主観的幸福感(平均)について」

幸福感平均の算出方法

「幸福だと感じている」を5点、「やや幸福だと感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり幸福だと感じていない」を2点、「幸福だと感じていない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化したもの。

■凡例■

グラフ左上の*は、R3調査結果の属性別一元配置分散分析結果を示す。

【***】 1%水準で差が有意(差が認められる)

【**】 5%水準で差が有意(差が認められる)

【*】 10%水準で差が有意(差が認められる)

【-】 差が認められない

4.3 分野別実感について

令和3年県民意識調査結果から得られた分野別実感の平均値は表8のとおりであり、県民計画の開始前である平成31年を基準とした場合、4分野で上昇、4分野で横ばい、4分野で低下が見られました。

表8 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（基準年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移		
		H31 (基準年)	R2	R3 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.00	3.15 ↑ (0.15)	3.07 ↑ (0.07)
	(2) 余暇の充実	3.05	2.93 ↓ (Δ0.12)	2.97 ↓ (Δ0.08)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.84	3.86 - (0.02)	3.85 - (0.01)
	(4) 子育て	3.08	3.07 - (Δ0.01)	3.16 ↑ (0.08)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.10	3.09 - (Δ0.01)	3.20 ↑ (0.10)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.34	3.29 - (Δ0.04)	3.31 - (Δ0.02)
	(7) 地域社会とのつながり	3.35	3.16 ↓ (Δ0.19)	3.09 ↓ (Δ0.25)
V 安全	(8) 地域の安全	3.82	3.66 ↓ (Δ0.16)	3.76 ↓ (Δ0.06)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.54	3.38 ↓ (Δ0.16)	3.49 - (Δ0.05)
	(10) 必要な収入や所得	2.65	2.56 ↓ (Δ0.09)	2.77 ↑ (0.13)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.28	3.25 - (Δ0.03)	3.18 ↓ (Δ0.11)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.21	4.16 ↓ (Δ0.05)	4.18 - (Δ0.03)

(注) ① () は基準年調査との差。

なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。

② t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記。

4.3.1 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.07点であり、基準年調査より0.07点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「60歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表9のとおりでした。

表9 「心身の健康」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.00	3.07	0.07
年代	60～69歳	3.05	3.20	0.16
職業	60歳以上の無職	2.90	3.07	0.17
世帯構成	その他	2.82	3.15	0.33
居住年数	20年以上	2.98	3.05	0.07
広域振興圏	県南広域振興圏	2.92	3.06	0.14

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表9のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、当該項目の実績が令和2年調査からしかないことから、令和2年調査と令和3年調査で実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P11表4参照）。

【からだ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) 健康診断の結果
- (ウ) 持病の有無

【こころ】

- (ア) 睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）
- (イ) からだの健康状態
- (ウ) 仕事・学業以外の私生活におけるストレスの有無

- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分（ワークライフバランス）が良かったこと」、「健

康診断の結果が良かったこと」、「持病がないこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)が良かったこと」、「からだの健康状態が良好であること」、「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(2) 「子育て」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.16 点であり、基準年調査より 0.08 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「20 歳代」が低く、「40 歳代」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「沿岸広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 10 のとおりでした。

表 10 「子育て」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.08	3.16	0.08
性別	女性	3.11	3.21	0.09
年代	40～49 歳	3.09	3.28	0.19
職業	会社役員・団体役員	2.94	3.29	0.35
	専業主婦・主夫	3.04	3.27	0.23
世帯構成	その他	2.93	3.31	0.39
子の数	子どもはいない	2.60	2.83	0.23
居住年数	20 年以上	3.09	3.16	0.08
広域振興圏	県南広域振興圏	2.97	3.11	0.15

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表 10 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P 11 表 4 参照）。

(ア) 子どもを預けられる場所の有無(保育所など)

- (イ) 子どもを預けられる人の有無(親、親戚など)
 - (ウ) 配偶者の家事への参加
 - (エ) 自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)
 - (オ) 自分の勤め先の子育てに対する理解
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「子どもを預けられる場所(保育所など)があること」、「子どもを預けられる人(親、親戚など)がいること」、「配偶者が家事に参加していること」、「自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)が良好であること」、「自分の勤め先の子育てに対する理解があること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値(4点以上)で推移している属性はなく、低値(3点未満)で推移している属性は表11のとおりです。

○ 20歳代

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「20歳代」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (ウ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと

○ ひとり暮らし

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「ひとり暮らし」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「子どもはいない人」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと
- (ウ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)

表11 「子育て」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3
年代	20～29歳	2.83	2.84	2.75	2.80	2.89	2.99
世帯構成	ひとり暮らし	2.71	2.80	2.86	2.80	2.94	2.97
子の数	子どもはいない	2.61	2.73	2.63	2.60	2.72	2.83

(3) 「子どもの教育」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.20点であり、基準年調査より0.10点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表12のとおりでした。

表12 「子どもの教育」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.10	3.20	0.10
性別	男性	3.08	3.17	0.09
	女性	3.12	3.23	0.10
年代	30～39歳	2.98	3.28	0.31
	60～69歳	2.95	3.14	0.19
職業	会社役員・団体役員	2.97	3.26	0.29
	常用雇用者	3.03	3.16	0.13
	専業主婦・主夫	3.17	3.36	0.19
世帯構成	2世代世帯	3.10	3.19	0.09
	その他	3.05	3.37	0.32
子の数	1人	3.09	3.24	0.15
	2人	3.14	3.29	0.14
	子どもはいない	2.84	2.98	0.14
居住年数	10年未満	2.78	3.16	0.38
	20年以上	3.10	3.20	0.09
広域振興圏	県央広域振興圏	3.14	3.28	0.13

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表12のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P11表4参照）。
 - （ア） 学力を育む教育内容
 - （イ） 人間性、社会性を育むための教育内容
 - （ウ） 健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「学力を育む教育内容となっていること」、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)となっていること」と推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 13 のとおりでした。

○ 子どもはいない

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「子どもはいない」の回答者が「あまり感じない・感じない」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと
- (ウ) 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと
- (エ) わからない（身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど）

表 13 「子どもの教育」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
子の数	子どもはいない	2.96	2.94	2.92	2.84	2.80	2.98

(4) 「必要な収入や所得」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 2.77 点であり、基準年調査より 0.13 点上昇しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に上昇していることから、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60 歳以上の無職」が低く、「会社役員・団体役員」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 14 のとおりでした。

表 14 「必要な収入や所得」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		2.65	2.77	0.13
性別	女性	2.61	2.79	0.18
年代	60～69 歳	2.63	2.77	0.14
職業	常用雇用者	2.72	2.86	0.13
	専業主婦・主夫	2.46	2.89	0.43
世帯構成	夫婦のみ	2.76	2.92	0.15
子の数	2 人	2.71	2.86	0.16
	4 人以上	2.48	2.86	0.38

居住年数	10年未満	2.55	2.99	0.43
	10～20年未満	2.48	3.14	0.65
	20年以上	2.66	2.75	0.09
広域振興圏	県央広域振興圏	2.73	2.87	0.14
	県南広域振興圏	2.54	2.70	0.16
	県北広域振興圏	2.60	2.76	0.16

② 分野別実感が上昇した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に上昇した属性は、表14のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が上昇した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P11表4参照）。
 - （ア） 自分の収入・所得額(年金を含む)
 - （イ） 家族の収入・所得額(年金を含む)
 - （ウ） 生活の程度
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が上昇した要因は、「自分の収入・所得額(年金を含む)が十分であること」、「家族の収入・所得額(年金を含む)が十分であること」、「生活の程度が十分であること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）で推移している属性はなく、低値（3点未満）で推移している属性は表15のとおりでした。
- ・ ほぼ全ての属性において一貫して低値で推移していることから、補足調査において、補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目から、「自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと」、「自分の金融資産の額が十分とは言えないこと」が一貫して低値で推移している要因として推測されます（P10表3参照）。

表15 「必要な収入や所得」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3
県計		2.44	2.58	2.45	2.65	2.56	2.77
性別	男性	2.46	2.60	2.47	2.68	2.55	2.75
	女性	2.43	2.56	2.43	2.61	2.58	2.79
年代	20～29歳	2.48	2.51	2.44	2.66	2.49	2.68
	30～39歳	2.44	2.47	2.42	2.51	2.36	2.71
	40～49歳	2.51	2.56	2.52	2.66	2.50	2.82
	50～59歳	2.46	2.52	2.49	2.60	2.52	2.75
	60～69歳	2.37	2.57	2.40	2.63	2.59	2.77
	70歳以上	2.46	2.70	2.45	2.75	2.65	2.80
職業別	自営業主	2.53	2.69	2.58	2.86	2.63	2.86
	家族従業者	2.61	2.85	2.42	2.91	2.73	2.81
	常用雇用者	2.58	2.66	2.55	2.72	2.60	2.86
	臨時雇用者	2.20	2.31	2.30	2.56	2.39	2.65
	学生+その他	2.49	2.73	2.63	2.80	2.55	2.94

	専業主婦（主夫）	2.37	2.48	2.34	2.46	2.67	2.89
	60歳以上の無職	2.25	2.46	2.29	2.37	2.46	2.42
世帯構成	ひとり暮らし	2.52	2.65	2.53	2.65	2.57	2.75
	夫婦のみ	2.59	2.72	2.43	2.76	2.68	2.92
	2世代世帯	2.41	2.54	2.51	2.62	2.54	2.71
	3世代世帯	2.49	2.56	2.52	2.72	2.55	2.82
子の数	1人	2.41	2.52	2.48	2.70	2.53	2.78
	2人	2.48	2.61	2.49	2.71	2.62	2.86
	3人	2.52	2.70	2.48	2.69	2.59	2.83
	4人以上	2.36	2.54	2.31	2.48	2.58	2.86
	子どもはいない	2.37	2.44	2.40	2.53	2.42	2.59
居住年数	10年未満	2.78	2.74	2.71	2.55	2.92	2.99
	20年以上	2.42	2.57	2.44	2.66	2.54	2.75
広域振興圏	県央広域振興圏	2.47	2.59	2.50	2.73	2.62	2.87
	県南広域振興圏	2.39	2.53	2.42	2.54	2.58	2.70
	沿岸広域振興圏	2.52	2.63	2.51	2.71	2.53	2.76
	県北広域振興圏	2.37	2.57	2.34	2.60	2.48	2.76

4.3.2 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は2.97点であり、基準年調査より0.08点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「20歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「2世代世帯」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「1人」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県南広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表16のとおりでした。

表16 「余暇の充実」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.05	2.97	▲0.08
性別	女性	3.08	2.98	▲0.10
年代	50～59歳	2.92	2.70	▲0.23
	70歳以上	3.36	3.15	▲0.21
職業	60歳以上の無職	3.26	3.09	▲0.17
子の数	1人	3.05	2.86	▲0.19
居住年数	20年以上	3.03	2.95	▲0.09
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.09	2.96	▲0.13

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表16のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P11表4参照）。
 - （ア） 自由な時間の確保
 - （イ） 知人・友人との交流
 - （ウ） 趣味・娯楽活動の場所・機会
 なお、回答項目の「その他」では、上記（ア）～（ウ）に関連し、新型コロナウイルス感染症の影響による外出や行動の制限等の記載がありました。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自由な時間を十分に確保でき

なかったこと」、「知人・友人との交流が減ったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性はなく、低値（3 点未満）で推移している属性は表 17 のとおりです。
- 補足調査において、これらの属性で「あまり感じない・感じない」と回答した人の主な回答項目は、「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」で全て同一であったことから、これらが要因として推測されます。

表 17 「余暇の充実」の実感において低値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R 2	R 3
年代	30～39 歳	2.73	2.88	2.88	2.71	2.78	2.86
	40～49 歳	2.88	2.82	2.88	2.87	2.88	2.83
	50～59 歳	2.68	2.85	2.79	2.92	2.78	2.70
職業別	常用雇用者	2.82	2.87	2.82	2.89	2.85	2.86
世帯構成	2 世代世帯	2.80	2.98	2.94	2.97	2.84	2.92
子の数	子どもはいない	2.84	2.92	2.97	2.92	2.91	2.91

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.09 点であり、基準年調査より 0.25 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は 2 年連続で低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- 年代別では、「20 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- 職業別では、「常用雇用者」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「3 世代世帯」が高くなりました。
- 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「3 人」が高くなりました。
- 居住年数別では、「10 年未満」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- 広域振興圏別では、「県央広域振興圏」が低く、「沿岸広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 18 のとおりでした。

表 18 「地域社会とのつながり」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.35	3.09	▲0.25
性別	男性	3.37	3.09	▲0.28
	女性	3.33	3.09	▲0.23
年代	30～39 歳	3.03	2.83	▲0.20
	40～49 歳	3.22	2.94	▲0.28

	50～59 歳	3.30	2.91	▲0.39
	60～69 歳	3.37	3.15	▲0.22
	70 歳以上	3.59	3.38	▲0.21
職業	自営業主	3.52	3.33	▲0.19
	家族従業者	3.58	3.25	▲0.33
	常用雇用者	3.22	2.92	▲0.30
	臨時雇用者	3.27	2.95	▲0.32
	60 歳以上の無職	3.48	3.24	▲0.24
世帯構成	ひとり暮らし	3.15	2.84	▲0.32
	夫婦のみ	3.39	3.19	▲0.20
	2 世代世帯	3.34	3.01	▲0.33
	3 世代世帯	3.53	3.32	▲0.21
子の数	1 人	3.31	2.99	▲0.32
	2 人	3.45	3.22	▲0.22
	3 人	3.47	3.24	▲0.23
	子どもはいない	3.08	2.79	▲0.28
居住年数	10 年未満	3.04	2.67	▲0.38
	20 年以上	3.37	3.10	▲0.27
広域振興圏	県央広域振興圏	3.24	3.00	▲0.23
	県南広域振興圏	3.40	3.15	▲0.25
	沿岸広域振興圏	3.43	3.16	▲0.28
	県北広域振興圏	3.33	3.07	▲0.27

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 18 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P 11 表 4 参照）。
 - （ア） 隣近所との面識・交流
 - （イ） 自治会・町内会活動への参加（環境美化、防犯・防災活動など）
 - （ウ） その地域で過ごした年数
 なお、回答項目の「その他」では、上記（ア）～（ウ）に関連し、「昔ほど地域間の連携性を感じない」や「近所との交流がない」等の記載がありました。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「隣近所との面識・交流が減ったこと」、「自治会・町内会活動への参加が減ったこと（環境美化、防犯・防災活動など）」、「その地域で過ごした年数が影響していること」とであると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

(3) 「地域の安全」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.76点であり、基準年調査より0.06点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 世帯構成別では、「2世代世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「4人以上」が低く、「2人」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表19のとおりでした。

表19 「地域の安全」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.82	3.76	▲0.06
年代	50～59歳	3.84	3.69	▲0.15
職業	常用雇用者	3.83	3.74	▲0.09
	60歳以上の無職	3.86	3.74	▲0.12
世帯構成	2世代世帯	3.81	3.70	▲0.11
子の数	4人以上	3.92	3.65	▲0.27
居住年数	20年以上	3.83	3.76	▲0.07
広域振興圏	県央広域振興圏	3.87	3.76	▲0.11

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表19のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P11表4参照）。
 - （ア） 自然災害の発生状況
 - （イ） 交通事故の防止（歩道の整備など）
 - （ウ） 社会インフラの老朽化（橋、下水道など）
 なお、回答項目の「その他」では、上記（ア）～（ウ）に関連し、「歩行者の通路が狭い」や「道路の除雪」等の記載がありました。
- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」、「交通事故の防止対策（歩道の整備など）が十分とは言えないこと」、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）が懸念されること」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(4) 「歴史・文化への誇り」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.18 点であり、基準年調査より 0.11 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意に低下していることから、当該分野の実感は低下していると考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和 3 年県民意識調査の状況

- ・ 性別では、「男性」が低く、「女性」が高くなりました。
- ・ 年代別では、「30 歳代」が低く、「70 歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「臨時雇用者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和 3 年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 20 のとおりでした。

表 20 「歴史・文化への誇り」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R 3	R3-H31 (対基準年差)
県計		3.28	3.18	▲0.11
性別	男性	3.22	3.13	▲0.10
	女性	3.35	3.22	▲0.12
年代	50～59 歳	3.26	3.11	▲0.14
	70 歳以上	3.42	3.28	▲0.13
職業	臨時雇用者	3.27	3.07	▲0.20
	専業主婦・主夫	3.40	3.23	▲0.17
	60 歳以上の無職	3.28	3.13	▲0.15
世帯構成	2 世代世帯	3.27	3.15	▲0.11
子の数	2 人	3.35	3.25	▲0.10
	3 人	3.26	3.10	▲0.16
居住年数	20 年以上	3.30	3.17	▲0.12
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.30	3.10	▲0.20
	県北広域振興圏	3.25	3.07	▲0.18

② 分野別実感が低下した要因

- ・ 県民意識調査の結果、実感が有意に低下した属性は、表 20 のとおり幅広く存在しており、特徴的な属性は確認できませんでした。
- ・ 補足調査で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」において、実感が低下した人の主な回答項目は以下のとおりでした（P 11 表 4 参照）。
 - (ア) 誇りを感じる歴史や文化が見当たらない
 - (イ) 地域のお祭り・伝統芸能
 - (ウ) その地域で過ごした年数
 なお、回答項目の「その他」では、上記(ア)～(ウ)に関連し、「学んだり知ったり

する機会がない」等の記載がありました。

- ・ 補足調査結果において、実感が低下した人の上記回答項目と、実感が横ばい、上昇した人の回答項目を比較しても特徴的な要因は抽出できませんでした。
- ・ 以上を踏まえ、当該分野の実感が低下した要因は、「誇りを感じる歴史や文化が見当たらないこと」、「地域のお祭りの開催・伝統芸能の発表の機会が減少していること」、「その地域で過ごした年数が長いこと」であると推測されます。

③ 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）又は低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

4.3.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.85 点であり、基準年調査より 0.01 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50 歳代」が低く、「20 歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「4 人以上」が低く、「2 人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20 年以上」が低く、「10～20 年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表 21 のとおりでした。

表 21 「家族関係」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
職業	会社役員・団体役員	3.73	3.98	0.25
	学生+その他	3.87	4.17	0.30

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成 28 年から令和 3 年までの県民意識調査で、一貫して高値（4 点以上）で推移している属性は表 22 のとおりであり、低値（3 点未満）で推移している属性はありませんでした。

○ 夫婦のみ世帯

補足調査結果で把握している「分野別実感の回答理由と関連が強い要因として選択された項目」で、「夫婦のみ世帯」の回答者が「感じる・やや感じる」と回答した項目から、以下の要因が推測されます。

- (ア) 会話の頻度が多いこと
- (イ) 同居（あるいは別居）がうまくいっていること
- (ウ) 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること

表 22 「家族関係」の実感において高値で推移している属性

属性		H28	H29	H30	H31	R2	R3
世帯構成	夫婦のみ	4.05	4.00	4.04	4.02	4.03	4.02

(2) 「住まいの快適さ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は 3.31 点であり、基準年調査より 0.02 点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「50歳代」が低く、「70歳以上」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「家族従業者」が低く、「専業主婦・主夫」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「夫婦のみ世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。
- ・ 広域振興圏別では、「県北広域振興圏」が低く、「県央広域振興圏」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表23のとおりでした。

表23 「住まいの快適さ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
年代	50～59歳	3.26	3.11	▲0.15
世帯構成	その他	3.19	3.41	0.23
居住年数	10年未満	2.96	3.33	0.37

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(3) 「仕事のやりがい」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は3.49点であり、基準年調査より0.05点低下しています。

t 検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「自営業主」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「その他世帯」が低く、「3世代世帯」が高くなりました。
- ・ 子の数別では、「子どもはいない」が低く、「2人」が高くなりました。
- ・ 居住年数別では、「20年以上」が低く、「10～20年未満」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は表24のとおりでした。

表 24 「仕事のやりがい」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
年代	70歳以上	3.72	3.50	▲0.23
職業	家族従業者	3.77	3.41	▲0.35
	60歳以上の無職	3.32	3.07	▲0.25
子の数	3人	3.74	3.56	▲0.18
広域振興圏	沿岸広域振興圏	3.57	3.42	▲0.15

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して高値（4点以上）又は低値（3点未満）で推移している属性はありませんでした。

(4) 「自然のゆたかさ」の実感

① 分野別実感の概況

ア 分野別実感の推移

実感平均値は4.18点であり、基準年調査より0.03点低下しています。

t検定を行った結果、基準年調査に比べて有意な変化は見られなかったことから、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

イ 属性別の状況

○ 令和3年県民意識調査の状況

- ・ 年代別では、「70歳以上」が低く、「50歳代」が高くなりました。
- ・ 職業別では、「60歳以上の無職」が低く、「学生+その他」が高くなりました。
- ・ 世帯構成別では、「ひとり暮らし」が低く、「その他世帯」が高くなりました。

○ 令和3年県民意識調査と基準年調査との比較

基準年調査と比較して有意に変化した属性は、表25のとおりでした。

表 25 「自然のゆたかさ」の実感において有意な変化があった属性と基準年差

属性		H31	R3	R3-H31 (対基準年差)
職業	臨時雇用者	4.31	4.16	▲0.15

② 一貫して高値又は低値で推移している属性とその要因

- ・ 平成28年から令和3年までの県民意識調査で、一貫して低値（3点未満）で推移している属性はなく、高値（4点以上）で推移している属性は表26のとおりです。
- ・ 全ての属性において高値で推移していることから、補足調査において、当該分野別実感の「感じる・やや感じる」と回答した項目から、「緑の量が豊かであること」、「空気の状態が綺麗であること」、「水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること」が一貫して高値で推移している要因として推測されます（P10表3参照）。

表 26 「自然のゆたかさ」の実感において高値で推移している属性

属性		H29	H30	H31	R2	R3
県計		4.26	4.27	4.21	4.16	4.18
性別	男性	4.23	4.25	4.19	4.13	4.16
	女性	4.29	4.28	4.23	4.18	4.20
年代	20～29歳	4.37	4.36	4.20	4.20	4.21

	30～39 歳	4.28	4.31	4.22	4.33	4.24
	40～49 歳	4.30	4.42	4.30	4.16	4.22
	50～59 歳	4.30	4.38	4.27	4.25	4.24
	60～69 歳	4.24	4.18	4.17	4.09	4.19
	70 歳以上	4.20	4.14	4.17	4.10	4.08
職業別	自営業主	4.29	4.29	4.21	4.22	4.19
	家族従業者	4.50	4.31	4.12	4.33	4.15
	会社役員・団体役員	4.28	4.26	4.28	4.20	4.30
	常用雇用者	4.30	4.33	4.25	4.21	4.24
	臨時雇用者	4.36	4.31	4.31	4.22	4.16
	学生＋その他	4.37	4.59	4.33	4.09	4.34
	専業主婦（主夫）	4.22	4.29	4.21	4.15	4.21
	60 歳以上の無職	4.09	4.04	4.09	4.04	4.07
世帯構成	ひとり暮らし	4.18	4.22	4.18	4.16	4.07
	夫婦のみ	4.21	4.22	4.20	4.10	4.21
	2 世代世帯	4.29	4.28	4.22	4.19	4.16
	3 世代世帯	4.44	4.39	4.34	4.29	4.29
子の数	1 人	4.28	4.25	4.21	4.16	4.24
	2 人	4.24	4.25	4.25	4.16	4.19
	3 人	4.28	4.30	4.23	4.16	4.18
	4 人以上	4.32	4.28	4.25	4.22	4.18
	子どもはいない	4.27	4.30	4.14	4.19	4.18
居住年数	10 年未満	4.16	4.22	4.20	4.46	4.24
	10～20 年未満	4.21	4.29	4.24	4.31	4.35
	20 年以上	4.27	4.27	4.22	4.15	4.17
広域振興圏	県央広域振興圏	4.26	4.28	4.19	4.20	4.16
	県南広域振興圏	4.22	4.26	4.15	4.11	4.15
	沿岸広域振興圏	4.25	4.25	4.26	4.13	4.21
	県北広域振興圏	4.37	4.27	4.31	4.23	4.22

第5章 まとめ

5.1 主観的幸福感について

令和3年県民意識調査結果によると、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の実感平均値は3.52点（基準年調査：3.43点）となり、基準年より0.09点上昇しています。

t検定を行った結果、基準年調査と比べて有意に上昇しているため、主観的幸福感については上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男性」、「女性」、年代別では「60歳代」、職業別では、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成では「夫婦のみ世帯」、「その他世帯」、子の数では「2人」、居住年数では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

また、幸福を判断するに当たっては、「健康状況」や「家族関係」を特に重視していることが分かりました。

5.2 分野別実感について

分野別の実感について、「感じる」から「感じない」の5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、分野別実感の平均値は、基準年調査と比較して、4分野で上昇、4分野で横ばい、4分野で低下となりました。

5.2.1 実感が上昇した分野

(1) 「心身の健康」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.07点上昇して3.07点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、年代別では「60歳代」、職業別では「60歳以上の無職」、世帯構成別では「その他世帯」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、からだの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)が良かったこと」「健康診断の結果が良かったこと」「持病がないこと」であり、こころの健康が「睡眠・休養・しごと・学業・運動などの暮らしの時間配分(ワークライフバランス)が良かったこと」「からだの健康状態が良好であること」「仕事・学業以外の私生活におけるストレスが減ったこと」であると推測されます。

(2) 「子育て」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.08点上昇して3.16点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「40歳代」、職業別では「会社役員・団体役員」、「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「その他世帯」、子の数別では「子どもはいない」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県南広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「子どもを預けられる場所(保育所など)があること」、「子どもを預けられる人(親、親戚など)がいること」、「配偶者が家事に参加していること」、「自分の就業状況(労働時間、休業・休暇など)が良好であること」、「自分の勤め先の子育てに対する理解があること」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、年代別で「20歳代」、世帯構成別で「ひとり暮らし」、子の数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のと

おり推測されます。

○ 20 歳代

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (ウ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと

○ ひとり暮らし

- (ア) 子どもを預けられる場所(保育所など)がないこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと
- (ウ) 子育てにかかる費用が高いこと

○ 子どもはいない

- (ア) 子育てにかかる費用が高いこと
- (イ) 子育て支援サービスの内容が十分とは言えないこと
- (ウ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)

(3) 「子どもの教育」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.10点上昇して3.20点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「30歳代」、「60歳代」、職業別では「会社役員・団体役員」、「常用雇用者」、「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「2世代世帯」、「その他世帯」、子の数別では「1人」、「2人」、「子どもはいない」、居住年数別では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「学力を育む教育内容となっていること」、「人間性、社会性を育むための教育内容となっていること」、「健やかな体を育む教育内容(体育、部活動の内容など)となっていること」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、子の数別で「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) 人間性、社会性を育むための教育内容が十分とは言えないこと
- (イ) 学力を育む教育内容が十分とは言えないこと
- (ウ) 不登校やいじめなどの対応が十分とは言えないこと
- (エ) わからない(身近に子どもがいない、子育てにかかわっていないなど)

(4) 「必要な収入や所得」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.13点上昇して2.77点であり、当該分野の実感は上昇していると考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、性別では「女性」、年代別では「60歳代」、職業別では「常用雇用者」、「専業主婦・主夫」、世帯構成別では「夫婦のみ」、子の数別では「2人」、「4人以上」、居住年数別では「全属性」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏を除くすべての属性」であり、低下した属性はありませんでした。

当該分野の実感が上昇した要因として、補足調査の結果より、「自分の収入・所得額(年金を含む)が十分であること」、「家族の収入・所得額(年金を含む)が十分であること」、「生活の程度が十分であること」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、「会社役員・団体役員及び居住年数10~20年未満を除くすべての属性」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) 自分の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと
- (イ) 家族の収入・所得額（年金を含む）が十分とは言えないこと
- (ウ) 自分の金融資産の額が十分とは言えないこと

5.2.2 実感が低下した分野

(1) 「余暇の充実」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.08点低下して2.97点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「女性」、年代別では「50歳代」、「70歳以上」、職業別では「60歳以上の無職」、子の数別では「1人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自由な時間を十分に確保できなかったこと」、「知人・友人との交流が減ったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が減ったこと」であると推測されます。

一貫して低値で推移している属性は、年代別で見ると、「30歳代から50歳代」、職業別で見ると、「常用雇用者」、世帯構成別で見ると、「2世代世帯」、子の数別で見ると、「子どもはいない」であり、その要因は補足調査の結果より、該当する全ての属性において「自由な時間が十分に確保できなかったこと」、「趣味・娯楽活動の場所・機会が少ないこと」、「知人・友人との交流が少ないこと」であると推測されます。

(2) 「地域社会とのつながり」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.25点低下して3.09点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「30歳以上」、職業別では「自営業主」、「家族従業者」、「常用雇用者」、「臨時雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「その他世帯を除く全ての属性」、子の数別では「4人以上を除く全ての属性」、居住年数では「10年未満」、「20年以上」、広域振興圏別では「全ての属性」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「隣近所との面識・交流が減ったこと」、「自治会・町内会活動への参加が減ったこと（環境美化、防犯・防災活動など）」、「その地域で過ごした年数が影響していること」であると推測されます。

(3) 「地域の安全」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.06点低下して3.76点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別では「50歳代」、職業別では「常用雇用者」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「2世代世帯」、子の数別では「4人以上」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「県央広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「自然災害の発生が多く、被害も大きくなっていること」、「交通事故の防止対策（歩道の整備など）が十分とは言えないこと」、「社会インフラの老朽化（橋、下水道など）が懸念されること」であると推測されます。

(4) 「歴史・文化への誇り」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.11点低下

して3.18点であり、当該分野の実感は低下していると考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、性別では「男女両方」、年代別では「50歳代」、「70歳以上」、職業別では「臨時雇用者」、「専業主婦・主夫」、「60歳以上の無職」、世帯構成別では「2世代世帯」、子の数別では「2人」、「3人」、居住年数別では「20年以上」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」、「県北広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

当該分野の実感が低下した要因として、補足調査の結果より、「誇りを感じる歴史や文化が見当たらないこと」、「地域のお祭りの開催・伝統芸能の発表の機会が減少していること」、「その地域で過ごした年数が長いこと」であると推測されます。

5.2.3 実感が横ばいの分野

(1) 「家族関係」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.01点低下して3.85点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して上昇した属性は、職業別で「会社役員・団体役員」、「学生＋その他」であり、低下した属性はありませんでした。

一貫して高値で推移している属性は、「夫婦のみ世帯」であり、その要因は補足調査の結果より、以下のとおり推測されます。

- (ア) 会話の頻度が多いこと
- (イ) 同居（あるいは別居）がうまくいっていること
- (ウ) 家族がよい精神的影響（貢献）を自分にもたらしていること

(2) 「住まいの快適さ」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.02点低下して3.31点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別で「50歳代」であり、上昇した属性は、世帯構成別では「その他世帯」、居住年数別で「10年未満」でした。

(3) 「仕事のやりがい」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.05点低下して3.49点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、年代別では「70歳以上」、職業別では「家族従業者」、「60歳以上の無職」、子の数別では「3人」、広域振興圏別では「沿岸広域振興圏」であり、上昇した属性はありませんでした。

(4) 「自然のゆたかさ」の実感

令和3年県民意識調査における当該分野の実感平均値は、基準年調査より0.03点低下して4.18点であり、当該分野の実感は横ばいと考えられます。

基準年調査と比較して低下した属性は、職業別で「臨時雇用者」であり、上昇した属性はありませんでした。

全ての属性が一貫して高値で推移しており、補足調査の結果より、以下の要因が推測されます。

- (ア) 緑の量が豊かであること
- (イ) 空気の状態が綺麗であること
- (ウ) 水（河川、池、地下水など）の状態が綺麗であること

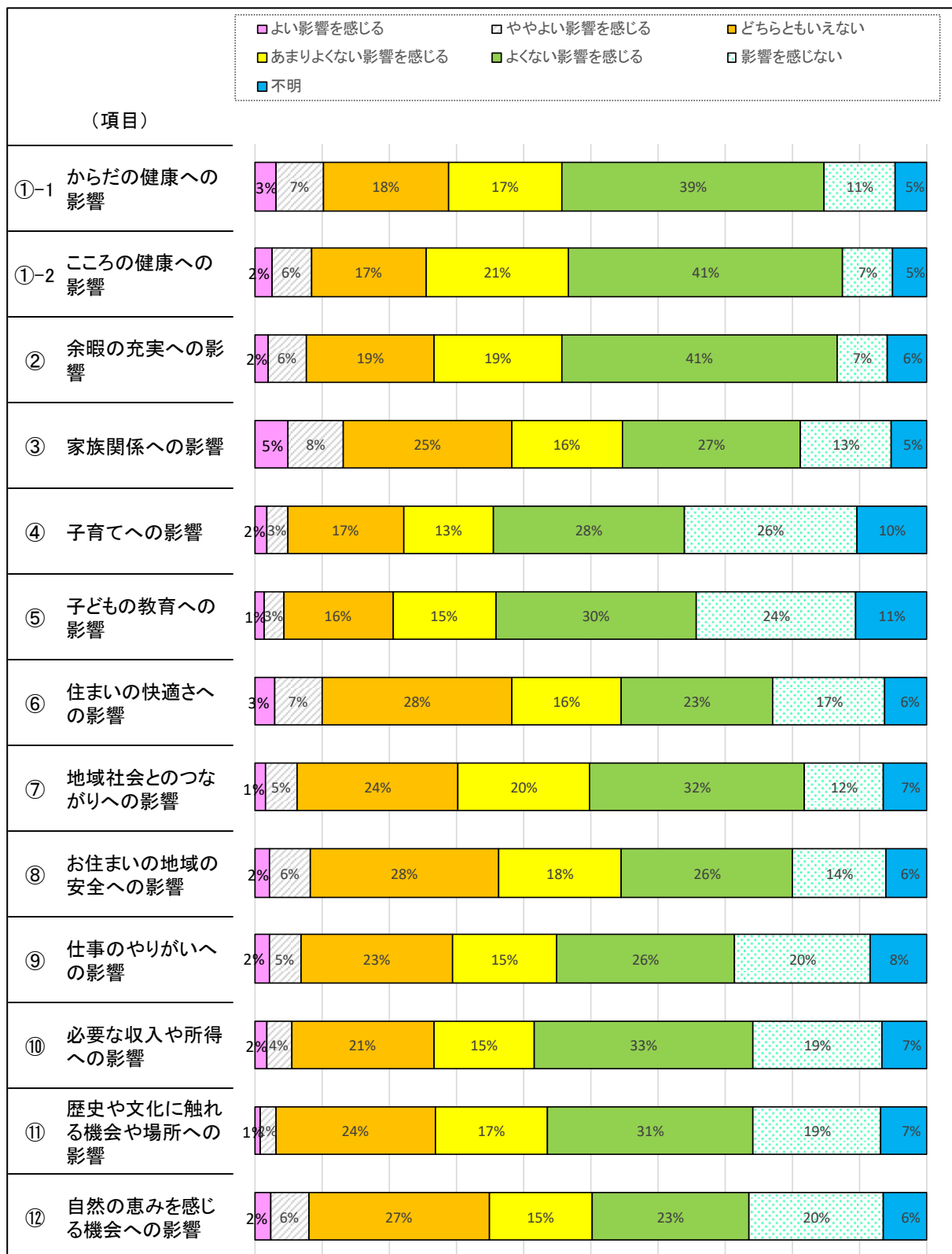
【追加分析】

**新型コロナウイルス感染症の各分野への影響と
分野別実感の関連性の分析**

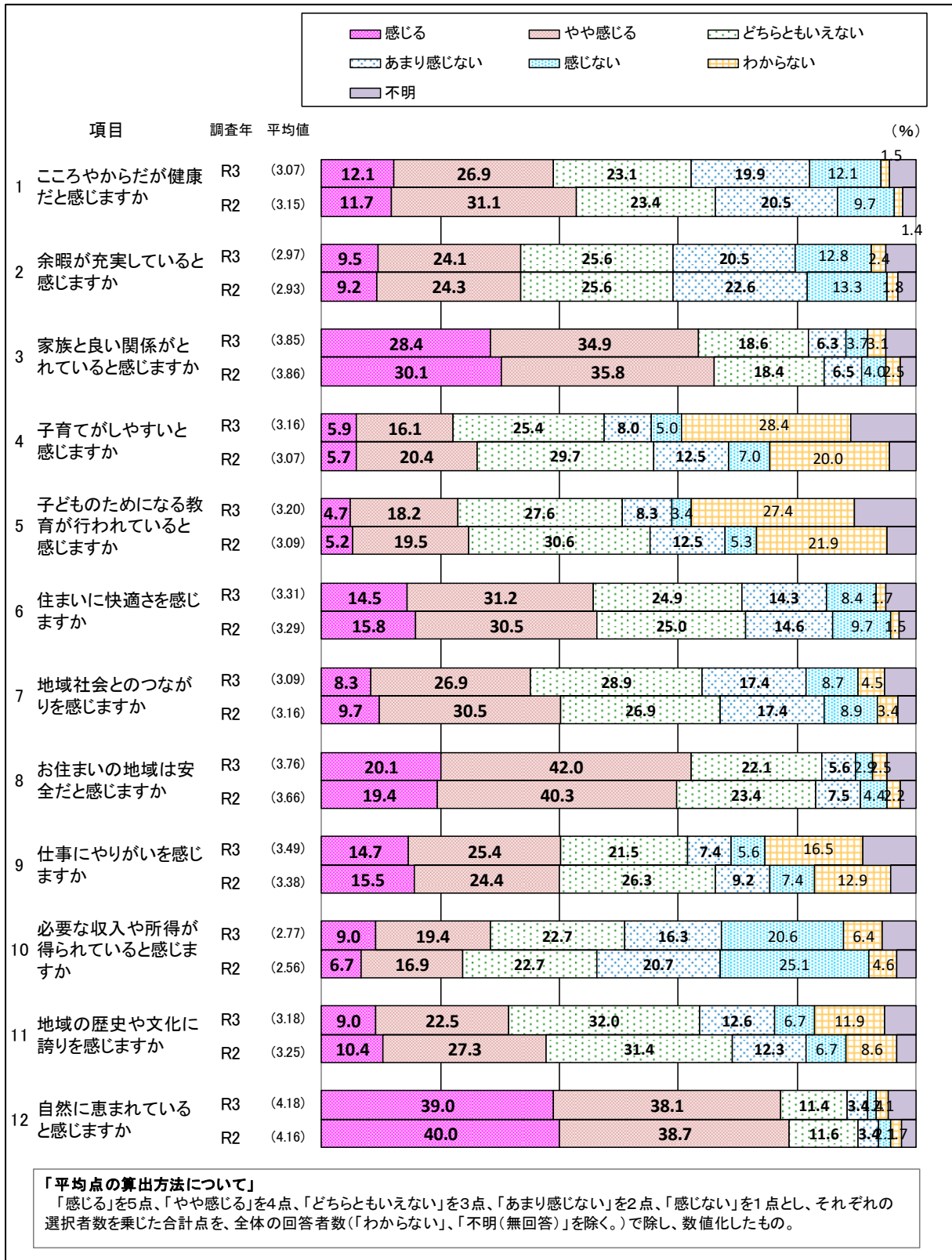
1 追加分析の内容

令和3年県民意識調査では、令和2年2月ごろから顕在化した新型コロナウイルス感染症の各分野への影響を尋ねる質問を設けました。そして、その回答結果（図A）と令和2年と令和3年の分野別実感の回答結果（図B）をもとに、新型コロナウイルス感染症の各分野への影響の度合いと、分野別実感の変動の関連性を統計的に分析しました。

図A 【県民意識調査】新型コロナウイルス感染症の影響に係る項目の回答状況



図B 【県民意識調査】分野別実感の回答状況



2 分析手法

(1) 分野別実感の平均値の2時点比較

分野別に「感じる」から「感じない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点して得られた実感平均値について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と後の変動を把握するため、令和2年と令和3年の県民意識調査の分野別実感の平均値の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

(2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析

分野ごとの新型コロナウイルス感染症の影響の度合いと、分野別実感の関連性を把握するため、「新型コロナウイルス感染症の影響」を「良い影響を感じる」（「よい影響を感じる」＋「ややよい影響を感じる」）、「どちらともいえない」、「良くない影響を感じる」（「あまりよくない影響を感じる」＋「よくない影響を感じる」）、「影響を感じない」、「不明」の5つに区分し、分野別実感を「感じる」（「感じる」＋「やや感じる」）、「どちらともいえない」、「感じない」（「あまり感じない」＋「感じない」）、「わからない」、「不明」の5つに区分し、2つの項目間でクロス集計を行い、関連性の有無を分析しました。

(3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証

「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の平均値の関連性を検証するため、「新型コロナウイルス感染症の影響」を②と同様に「良い影響」、「どちらともいえない＋影響を感じない」、「良くない影響」の3段階に区分し、それぞれの区分ごとに「分野別実感」の平均値を出し、それらの間の差をt検定で検証し、5%水準で有意な差があるかどうかを分析しました。

3 結果の概要

(1) 分野別実感の平均値の2時点比較 (P48 表C参照)

令和2年と令和3年の分野別実感を比較した結果、実感が上昇したのは、「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」「仕事のやりがい」「必要な収入や所得」の5分野、実感が低下したのは、「心身の健康」「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」の3分野、横ばいだったのは、「余暇の充実」「家族関係」「住まいの快適さ」「自然のゆたかさ」の4分野でした。

(2) 「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」のクロス集計分析 (P49～55 表D-1～12 参照)

「新型コロナウイルス感染症の影響」については、全12分野で実感の内容に関わらず、「良くない影響を感じる」割合が「良い影響を感じる」割合よりも大きくなりました。

また、「新型コロナウイルス感染症の影響」の回答結果と「分野別実感」の回答結果の間には一律的な関連性（例えば、当該分野で新型コロナウイルス感染症の「良くない影響を感じる」割合が高いと、分野別実感を「感じない」割合が高くなるというような関連性）は確認できませんでした。

(3) 「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証 (P56 表E参照)

全ての「分野別実感」において、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良い影響を感じる」の回答者は、「どちらともいえない＋影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」の平均値が有意に高くなりました。

「家族関係」「住まいの快適さ」「必要な収入・所得」の3分野では、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者は、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」の平均値が有意に低くなりました。

「地域社会とのつながり」「歴史・文化への誇り」「自然のゆたかさ」の3分野では、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者は、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」の平均値が有意に高くなりました。

「心身の健康」「余暇の充実」「子育て」「子どもの教育」「地域の安全」「仕事のやりがい」の6分野では有意な差は確認できませんでした。

(4) 分析結果のまとめ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と後の「分野別実感」の変動は、分野間で異なり、一律的な変動は認められませんでした。

また、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間には、一律的な関連性は確認できませんでした。

さらに、「新型コロナウイルス感染症の影響」別にみた「分野別実感」の平均値の差の検証からは、全ての分野別実感において、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良い影響を感じる」の回答者は、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも分野別実感の平均値が有意に高くなりましたが、「新型コロナウイルス感染症の影響」について「良くない影響を感じる」の回答者は、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」の平均値が有意に低くなったのは12分野中3分野にとどまり、逆に、「分野別実感」の平均値が有意に高くなったのが3分野あり、6分野では有意な差は確認できませんでした。「良くない影響を感じる」の回答者が、「どちらともいえない+影響を感じない」の回答者よりも「分野別実感」の平均値が有意に低くなっていることが確認された3分野について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と後の「分野別実感」の変動を見てみると、1分野が上昇、2分野が横ばいで推移していました。

以上の分析結果から、新型コロナウイルス感染症は「分野別実感」に一定程度影響を与えたと推測できるものの、「新型コロナウイルス感染症の影響」と「分野別実感」の間に明確な関連性を確認することはできませんでした。

4 分析結果

(1) 分野別実感に係る令和2年調査との比較

表C 【県民意識調査】分野別実感の時系列分析結果（前年比較）

政策分野	分野別実感	平均値の推移	
		R2 (前年)	R3 (当該年度)
I 健康・余暇	(1) 心身の健康	3.15	3.07 ↓ (Δ0.08)
	(2) 余暇の充実	2.93	2.97 - (0.04)
II 家族・子育て	(3) 家族関係	3.86	3.85 - (Δ0.01)
	(4) 子育て	3.07	3.16 ↑ (0.09)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.09	3.20 ↑ (0.11)
IV 居住環境・コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.29	3.31 - (0.02)
	(7) 地域社会とのつながり	3.16	3.09 ↓ (Δ0.06)
V 安全	(8) 地域の安全	3.66	3.76 ↑ (0.10)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.38	3.49 ↑ (0.11)
	(10) 必要な収入や所得	2.56	2.77 ↑ (0.21)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への誇り	3.25	3.18 ↓ (Δ0.08)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.16	4.18 - (0.02)

※ 令和2年調査と令和3年調査を比べて、実感が上昇したところを□、低下したところを□で網掛けした。

(2) 分野別実感と影響実感のクロス集計

表D-1-1 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（からだの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	230	218	740	150	46	1,384
	やや感じる	(16.6%)	(15.8%)	(53.5%)	(10.8%)	(3.3%)	(100.0%)
	どちらともいえない	53	218	435	85	28	819
		(6.5%)	(26.6%)	(53.1%)	(10.4%)	(3.4%)	(100.0%)
	あまり感じない+	57	181	738	124	37	1,137
	感じない	(5.0%)	(15.9%)	(64.9%)	(10.9%)	(3.3%)	(100.0%)
	分からない	1	17	17	11	6	52
	(1.9%)	(32.7%)	(32.7%)	(21.2%)	(11.5%)	(100.0%)	
	不明	22	22	56	7	50	157
		(14.0%)	(14.0%)	(35.7%)	(4.5%)	(31.8%)	(100.0%)
合計		363	656	1986	377	167	3,549
		(10.2%)	(18.5%)	(56.0%)	(10.6%)	(4.7%)	(100.0%)

※小数点第1位未満四捨五入の関係から、割合の計が100%にならない場合がある。以下、表D-12まで同様とする。

表D-1-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（こころの健康）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	185	199	844	105	51	1,384
	やや感じる	(13.4%)	(14.4%)	(61.0%)	(7.6%)	(3.7%)	(100.0%)
	どちらともいえない	50	195	484	60	30	819
		(6.1%)	(23.8%)	(59.1%)	(7.3%)	(3.7%)	(100.0%)
	あまり感じない+	44	170	798	81	44	1,137
	感じない	(3.9%)	(15.0%)	(70.2%)	(7.1%)	(3.9%)	(100.0%)
	分からない	1	14	20	11	6	52
	(1.9%)	(26.9%)	(38.5%)	(21.2%)	(11.5%)	(100.0%)	
	不明	16	28	55	7	51	157
		(10.2%)	(17.8%)	(35.0%)	(4.5%)	(32.5%)	(100.0%)
合計		296	606	2,201	264	182	3,549
		(8.3%)	(17.1%)	(62.0%)	(7.4%)	(5.1%)	(100.0%)

表D-2 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（余暇の充実）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	153	204	703	77	54	1,191
	やや感じる	(12.8%)	(17.1%)	(59.0%)	(6.5%)	(4.5%)	(100.0%)
	どちらともいえない	54	223	530	67	35	909
		(5.9%)	(24.5%)	(58.3%)	(7.4%)	(3.9%)	(100.0%)
	あまり感じない+	46	190	808	95	41	1,180
	感じない	(3.9%)	(16.1%)	(68.5%)	(8.1%)	(3.5%)	(100.0%)
	分からない	1	30	30	19	5	85
	(1.2%)	(35.3%)	(35.3%)	(22.4%)	(5.9%)	(2.4%)	
	不明	19	25	57	8	75	184
		(10.3%)	(13.6%)	(31.0%)	(4.3%)	(40.8%)	(100.0%)
合計		273	672	2,128	266	210	3,549
		(7.7%)	(18.9%)	(60.0%)	(7.5%)	(5.9%)	(100.0%)

表D-3 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（家族関係）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	379	550	936	304	77	2,246
	やや感じる	(16.9%)	(24.5%)	(41.7%)	(13.5%)	(3.4%)	(100.0%)
	どちらともいえない	42	207	302	84	24	659
		(6.4%)	(31.4%)	(45.8%)	(12.7%)	(3.6%)	(100.0%)
	あまり感じない+	13	83	205	39	14	354
	感じない	(3.7%)	(23.4%)	(57.9%)	(11.0%)	(4.0%)	(100.0%)
	分からない	3	28	37	33	9	110
	(2.7%)	(25.5%)	(33.6%)	(30.0%)	(8.2%)	(100.0%)	
	不明	29	20	47	19	65	180
		(16.1%)	(11.1%)	(26.1%)	(10.6%)	(36.1%)	(100.0%)
合計		466	888	1,527	479	189	3,549
		(13.1%)	(25.0%)	(43.0%)	(13.5%)	(5.3%)	(100.0%)

表D-4 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子育て）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	86	145	408	107	37	783
	やや感じる	(11.0%)	(18.5%)	(52.1%)	(13.7%)	(4.7%)	(100.0%)
	どちらともいえない	42	224	424	165	48	903
		(4.7%)	(24.8%)	(47.0%)	(18.3%)	(5.3%)	(100.0%)
	あまり感じない+	15	69	284	76	18	462
	感じない	(3.2%)	(14.9%)	(61.5%)	(16.5%)	(3.9%)	(100.0%)
	分からない	9	131	288	506	73	1,007
	(0.9%)	(13.0%)	(28.6%)	(50.2%)	(7.2%)	(100.0%)	
不明	21	40	79	59	195	394	
	(5.3%)	(10.2%)	(20.1%)	(15.0%)	(49.5%)	(100.0%)	
合計		173	609	1,483	913	371	3,549
		(4.9%)	(17.2%)	(41.8%)	(25.7%)	(10.5%)	(100.0%)

表D-5 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（子どもの教育）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	81	116	467	110	39	813
	やや感じる	(10.0%)	(14.3%)	(57.4%)	(13.5%)	(4.8%)	(100.0%)
	どちらともいえない	31	245	502	150	52	980
		(3.2%)	(25.0%)	(51.2%)	(15.3%)	(5.3%)	(100.0%)
	あまり感じない+	10	59	259	66	22	416
	感じない	(2.4%)	(14.2%)	(62.3%)	(15.9%)	(5.3%)	(100.0%)
	分からない	8	126	296	468	74	972
	(0.8%)	(13.0%)	(30.5%)	(48.1%)	(7.6%)	(100.0%)	
不明	19	32	79	51	187	368	
	(5.2%)	(8.7%)	(21.5%)	(13.9%)	(50.8%)	(100.0%)	
合計		149	578	1,603	845	374	3,549
		(4.2%)	(16.3%)	(45.2%)	(23.8%)	(10.5%)	(100.0%)

表D-6 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（住まいの快適さ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	260	433	567	296	64	1,620
	やや感じる	(16.0%)	(26.7%)	(35.0%)	(18.3%)	(4.0%)	(100.0%)
	どちらともいえない	46	315	339	140	45	885
		(5.2%)	(35.6%)	(38.3%)	(15.8%)	(5.1%)	(100.0%)
	あまり感じない+	30	201	418	126	30	805
	感じない	(3.7%)	(25.0%)	(51.9%)	(15.7%)	(3.7%)	(100.0%)
	4	23	12	15	6	60	
	(6.7%)	(38.3%)	(20.0%)	(25.0%)	(10.0%)	(100.0%)	
	13	34	42	15	75	179	
	(7.3%)	(19.0%)	(23.5%)	(8.4%)	(41.9%)	(100.0%)	
合計		353	1006	1,378	592	220	3,549
		(9.9%)	(28.3%)	(38.8%)	(16.7%)	(6.2%)	(100.0%)

表D-7 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域社会とのつながり）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	144	231	698	114	61	1,248
	やや感じる	(11.5%)	(18.5%)	(55.9%)	(9.1%)	(4.9%)	(100.0%)
	どちらともいえない	41	317	513	104	51	1,026
		(4.0%)	(30.9%)	(50.0%)	(10.1%)	(5.0%)	(100.0%)
	あまり感じない+	21	217	510	150	30	928
	感じない	(2.3%)	(23.4%)	(55.0%)	(16.2%)	(3.2%)	(100.0%)
	5	55	51	37	12	160	
	(3.1%)	(34.4%)	(31.9%)	(23.1%)	(7.5%)	(100.0%)	
	13	29	57	11	77	187	
	(7.0%)	(15.5%)	(30.5%)	(5.9%)	(41.2%)	(100.0%)	
合計		224	849	1,829	416	231	3,549
		(6.3%)	(23.9%)	(51.5%)	(11.7%)	(6.5%)	(100.0%)

表D-8 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（地域の安全）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	231	567	981	334	91	2,204
	やや感じる	(10.5%)	(25.7%)	(44.5%)	(15.2%)	(4.1%)	(100.0%)
	どちらともいえない	31	288	346	84	34	783
		(4.0%)	(36.8%)	(44.2%)	(10.7%)	(4.3%)	(100.0%)
	あまり感じない+	8	75	163	40	15	301
	感じない	(2.7%)	(24.9%)	(54.2%)	(13.3%)	(5.0%)	(100.0%)
	2	30	23	23	10	88	
	(2.3%)	(34.1%)	(26.1%)	(26.1%)	(11.4%)	(100.0%)	
	18	36	41	11	67	173	
	(10.4%)	(20.8%)	(23.7%)	(6.4%)	(38.7%)	(100.0%)	
合計		290	996	1,554	492	217	3,549
		(8.2%)	(28.1%)	(43.8%)	(13.9%)	(6.1%)	(100.0%)

表D-9 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（仕事のやりがい）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	175	318	693	182	55	1,423
	やや感じる	(12.3%)	(22.3%)	(48.7%)	(12.8%)	(3.9%)	(100.0%)
	どちらともいえない	27	265	335	103	32	762
		(3.5%)	(34.8%)	(44.0%)	(13.5%)	(4.2%)	(100.0%)
	あまり感じない+	11	82	245	91	30	459
	感じない	(2.4%)	(17.9%)	(53.4%)	(19.8%)	(6.5%)	(100.0%)
	10	96	145	293	40	584	
	(1.7%)	(16.4%)	(24.8%)	(50.2%)	(6.8%)	(100.0%)	
	18	42	70	50	141	321	
	(5.6%)	(13.1%)	(21.8%)	(15.6%)	(43.9%)	(100.0%)	
合計		241	803	1,488	719	298	3,549
		(6.8%)	(22.6%)	(41.9%)	(20.3%)	(8.4%)	(100.0%)

表D-10 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（必要な収入や所得）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	122	243	394	216	31	1,006
	やや感じる	(12.1%)	(24.2%)	(39.2%)	(21.5%)	(3.1%)	(100.0%)
	どちらともいえない	29	242	354	142	37	804
		(3.6%)	(30.1%)	(44.0%)	(17.7%)	(4.6%)	(100.0%)
	あまり感じない+	27	203	817	195	65	1,307
	感じない	(2.1%)	(15.5%)	(62.5%)	(14.9%)	(5.0%)	(100.0%)
	分からない	3	41	63	104	16	227
	(1.3%)	(18.1%)	(27.8%)	(45.8%)	(7.0%)	(100.0%)	
	不明	9	26	56	24	90	205
		(4.4%)	(12.7%)	(27.3%)	(11.7%)	(43.9%)	(100.0%)
合計		190	755	1,684	681	239	3,549
		(5.4%)	(21.3%)	(47.4%)	(19.2%)	(6.7%)	(100.0%)

表D-11 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（歴史・文化への誇り）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	122	243	394	216	31	1,006
	やや感じる	(12.1%)	(24.2%)	(39.2%)	(21.5%)	(3.1%)	(100.0%)
	どちらともいえない	29	242	354	142	37	804
		(3.6%)	(30.1%)	(44.0%)	(17.7%)	(4.6%)	(100.0%)
	あまり感じない+	27	203	817	195	65	1,307
	感じない	(2.1%)	(15.5%)	(62.5%)	(14.9%)	(5.0%)	(100.0%)
	分からない	3	41	63	104	16	227
	(1.3%)	(18.1%)	(27.8%)	(45.8%)	(7.0%)	(100.0%)	
	不明	9	26	56	24	90	205
		(4.4%)	(12.7%)	(27.3%)	(11.7%)	(43.9%)	(100.0%)
合計		190	755	1,684	681	239	3,549
		(5.4%)	(21.3%)	(47.4%)	(19.2%)	(6.7%)	(100.0%)

表D-12 分野別実感と新型コロナウイルス感染症の影響実感（自然のゆたかさ）

		新型コロナウイルス感染症の影響実感					合計
		良い影響を感じる	どちらともいえない	良くない影響を感じる	影響を感じない	不明	
分野別実感	感じる+	242	740	1125	521	108	2,736
	やや感じる	(8.8%)	(27.0%)	(41.1%)	(19.0%)	(3.9%)	(100.0%)
	どちらともいえない	13	140	137	89	24	403
		(3.2%)	(34.7%)	(34.0%)	(22.1%)	(6.0%)	(100.0%)
	あまり感じない+	11	30	64	53	12	170
	感じない	(6.5%)	(17.6%)	(37.6%)	(31.2%)	(7.1%)	(100.0%)
	3	21	12	26	14	76	
	(3.9%)	(27.6%)	(15.8%)	(34.2%)	(18.4%)	(100.0%)	
	12	25	34	21	72	164	
	(7.3%)	(15.2%)	(20.7%)	(12.8%)	(43.9%)	(100.0%)	
合計		281	956	1,372	710	230	3,549
		(7.9%)	(26.9%)	(38.7%)	(20.0%)	(6.5%)	(100.0%)

(3) 新型コロナウイルス感染症の影響実感の違いによる分野別実感平均値の差 (t 検定)

表 E 影響実感の内容別の実感平均値とその差

政策分野	分野別実感	実感平均値の差		
		どちらともいえない +影響を感じない	良い影響 を感じる	良くない影響 を感じる
I 健康・ 余暇	(1) 心身の健康	2.89	3.58 ↑ (0.68)	2.98 - (0.09)
	(2) 余暇の充実	2.96	3.57 ↑ (0.62)	2.89 - (△0.07)
II 家族・ 子育て	(3) 家族関係	3.85	4.29 ↑ (0.43)	3.72 ↓ (△0.13)
	(4) 子育て	3.13	3.67 ↑ (0.54)	3.12 - (△0.02)
III 教育	(5) 子どもの教育	3.14	3.76 ↑ (0.62)	3.18 - (0.04)
IV 居住環境・ コミュニティ	(6) 住まいの快適さ	3.35	3.96 ↑ (0.61)	3.11 ↓ (△0.24)
	(7) 地域社会との つながり	2.93	3.80 ↑ (0.87)	3.11 ↑ (0.18)
V 安全	(8) 地域の安全	3.75	4.21 ↑ (0.46)	3.70 - (△0.05)
VI 仕事・収入	(9) 仕事のやりがい	3.40	4.18 ↑ (0.78)	3.46 - (0.06)
	(10) 必要な収入や 所得	2.99	3.78 ↑ (0.80)	2.51 ↓ (△0.47)
VII 歴史・文化	(11) 歴史・文化への 誇り	2.99	3.88 ↑ (0.89)	3.29 ↑ (0.30)
VIII 自然環境	(12) 自然のゆたかさ	4.11	4.46 ↑ (0.35)	4.22 ↑ (0.10)

※1 「心身の健康」は、「こころの健康」と「からだの健康」のいずれかで「よい影響を感じる+ややよい影響を感じる」と回答した人を「良い影響を感じる」、「ややよくない影響を感じる+よくない影響を感じる」と回答した人を「良くない影響を感じる」とし、両方で「どちらともいえない+影響を感じない」と回答したものを比較対象とした。

※2 「-」はt検定の結果、5%水準で有意な差が確認されなかったもの

※3 「どちらともいえない+影響を感じない」に比べて、「良い影響を感じる」又は「良くない影響を感じる」の実感が高いところを□、低いところを■で網掛けした。

<参考>

参考1 県民の幸福感に関する分析部会運営要領

(設置)

第1条 岩手県総合計画審議会条例（昭和54年岩手県条例第29号）第7条の規定に基づき、岩手県総合計画審議会に県民の幸福感に関する分析部会（以下「部会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 部会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 「県の施策に関する県民意識調査」等で把握した、県民の幸福に対する実感の分析に関すること。
- (2) その他いわて県民計画の推進に当たって必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 部会は、岩手県総合計画審議会委員及び外部委員をもって組織する。

2 外部委員は、当該部会の所掌事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから、知事が任命する。

(部会長及び副部会長)

第4条 部会に、部会長及び副部会長を各1名置く。

- 2 部会長は、委員の互選によって定める。
- 3 副部会長は、委員のうちから部会長が指名する。
- 4 部会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 5 副部会長は部会長を補佐し、部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(オブザーバー)

第5条 部会にオブザーバーを置くことができる。

- 2 オブザーバーは、知事が任命する。
- 3 オブザーバーは、必要に応じて会議に出席し、意見を述べることができる。

(会議)

第6条 部会は、知事が招集する。

- 2 部会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 部会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 部会は、必要に応じて専門的知識を有する者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 部会の庶務は、政策企画部政策企画課において処理する。

(補則)

第9条 この要領に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、部会長が定める。

附 則

この要領は、令和元年6月6日から施行する。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

参考2 県民の幸福感に関する分析部会委員等名簿

氏名	現所属等	備考
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	部会長
若菜 千穂	特定非営利活動法人いわて地域づくり支援センター 常務理事	副部会長
竹村 祥子	浦和大学社会学部 教授	
谷藤 邦基	株式会社イーアールアイ 取締役 (岩手県立大学客員教授)	
Tee Kian Heng	岩手県立大学総合政策学部 教授	
山田 佳奈	岩手県立大学総合政策学部 准教授	
和川 央	岩手県立大学研究・地域連携本部 特任准教授	
広井 良典	京都大学こころの未来研究センター 副センター長	オブザーバー

参考3 令和3年度における部会開催状況等

月日	検討内容等
5月20日(木)	第1回部会開催 (1) 県民の幸福感に関する分析部会について (2) 県民の幸福感に関する分析方針(案)について (3) 分野別実感の分析について
5月27日(木)	第2回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
6月17日(木)	第3回部会開催 (1) 分野別実感の分析について
7月29日(木)	第4回部会開催 (1) 分野別実感等の分析について (2) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(素案)について
10月29日(金)	第5回部会開催(予定) (1) 令和3年度「県民の幸福感に関する分析部会」年次レポート(案)について (2) 令和4年県民意識調査(補足調査)について
11月12日(金)	第97回総合計画審議会で分析結果を報告

岩手県総合計画審議会「県民の幸福感に関する分析部会」
令和3年度年次レポート

発行 令和3年11月

発行者 岩手県総合計画審議会 県民の幸福感に関する分析部会

事務局 岩手県政策企画部政策企画課

TEL 019-629-5181 FAX 019-629-6229